

第3回 国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会

日時：平成25年3月15日（金）

15:00～17:00

場所：宮崎河川国道事務所 1階会議室

会議次第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

- (1) 第2回検討会議事要旨の確認
- (2) 宮崎県における沿道修景の取り組みについて（報告）
- (3) 今後の10号220号の植栽管理について
 - 1) 課題の整理
 - 2) 意向調査結果
 - 3) 景観面・安全管理面からの検討
 - 4) 維持管理方針の検討
 - 5) 実現に向けた検討
- (4) その他

4. 閉 会

「国道 10 号・220 号の植栽と景観に関する検討会」 規約 (案)

(名 称)

第1条 本会は「国道 10 号・220 号の植栽と景観に関する検討会」(以下「検討会」という)と称する。

(目 的)

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項を審議及び検討する。

- 一 国道 10 号・220 号(宮崎市江平東 1 丁目～同市大字熊野)における中央分離帯にあるワシントンアパームの整備のあり方
- 二 その他検討会において必要と認めた事項に関する事。

(組織構成)

第3条 検討会は、学識経験者等をもって構成し、委員は別紙「委員名簿」のとおりとする。

- 2 検討会に委員長を置き、委員長は会務を総括し検討会を代表する。
- 3 委員の追加及び変更は、検討会の承認を要するものとする。
- 4 検討会は、必要に応じて、専門家や有識者等の参加を求めることができる。

(第三者性)

第4条 委員は、検討会の目的に照らし、公正中立な立場から特定の行政機関及び特定の利害関係者等の利害を代表してはならない。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、検討会の検討事項が終了するまでとする。

(委員長)

第6条 委員長が、職務を遂行できない場合は、予め委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(検討会の運営)

第7条 検討会は、委員長の発議に基づいて開催する。

- 2 検討会は、会の運営にあたり必要な資料等を事務局に求めることができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、公開することが望ましくない個人情報等について漏洩してはならない。

(事務局)

第9条 検討会を運営するため、事務局を「国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 道路管理第二課」に設置する。

(その他)

第 10 条 本規約に定めるもののほか必要な事項は、その都度検討会において審議して定めるものとする。また、本規約の改正等は、本検討会の審議を経て行うことができるものとする。

附 則 この規約は、平成24年 6月 8日から施行する。

「委員名簿」(案)

委員長	北川 義男	一般財団法人 日本造園修景協会 宮崎支部長
委員	出口 近士	宮崎大学 工学教育研究部 国際教育センター 教授
委員	吉田 晋弥	一般財団法人 みやざき公園協会 理事長
委員	日高 晃	橘通フラワーロード推進協議会 代表
委員	西山 昌彦	宮崎日日新聞社 論説委員
委員	上村 哲司	宮崎交通株式会社 取締役
委員	永田 宣行	宮崎県 県土整備部 道路保全課長
委員	栗原 正夫	国土交通省 国土技術政策総合研究所 環境研究部 緑化生態研究室長
委員	大脇 鉄也	国土交通省 宮崎河川国道事務所長
オブザーバー	外山 俊文	宮崎市 都市整備部 景観課長
事務局	国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 道路管理第二課	

第2回 国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会 議事要旨

平成24年11月1日

1. ワシントニアパームの生態と管理上の課題

- ・鹿児島では、ワシントニアパームが樹齢100年、高さ35mほどになった例がある。
- ・接ぎ木、取り木の可能性については、公園等で社会実験として試行する方法もある。
- ・宮崎南バイパス供用当時（昭和54年頃）、ワシントニアパーム自体の管理については、ほとんどやっていたいなかったようだ。
- ・コストだけで議論するのではなく、タイムスパンで物事を考え、検討する必要がある。
- ・今後は、たくさんのお金を投じるのではなく、既にあるストックを有効に活用し、宮崎のアイデンティティーを大切にしながら知恵を出していく必要がある。

2. 今後の対応策について

- ・検討されている区間だけでなく、亜熱帯樹種で形成されている宮崎県全体の道路空間を今後どうしたいのかという考えを明確にしたうえで、当該検討区間の位置づけを共有する必要がある。
- ・本検討対象区間の中でも一律ではなく、価値の高い地域に限定する（優先度の順番付け）という考え方もある。
- ・ワシントニアパームに関する検討の記録を、きちんと残しておけば今後の検討の際の参考になる。

3. 意向調査について

- ・アンケート用紙1. 2)は、宮崎の中でも色々な地区があることを考慮すべき。
- ・アンケート用紙2. 2)及び3. (用紙右側の管理手法やコストの質問)は一般の人にはわかりにくく、回答しづらい。
- ・3. ②「今のワシントニアパームの本数を減らす」には、「間隔を間引く」と「区間を限定して撤去する」の2パターンがあるので、区別して示すほうが良い。
- ・3. の選択肢として、ワシントニアパームをさらに増やしていくという考え方もある。
- ・アンケート用紙の中に質問の前提条件やアンケートの趣旨が分かるようにする。
- ・子どもの意見を聞けるように工夫が必要。

4. 検討の進め方

- ・宮崎県全体（国、県、市）が連携し、この検討課題に取り組んでいくことが大切である。
- ・アンケート用紙（質問）については、本検討会の意見を踏まえて再度精査し、メール等で委員に確認することとする。

宮崎県における沿道修景の 取り組みについて

宮崎県県土整備部道路保全課

沿道修景に関する年表

- (S12) 日南海岸にフェニックス植栽・・・・・・・・・・・・・・・・ (76年前)
- (S34) 県下花いっぱい美しい郷土づくり県民運動の展開
- (S43) 日本いちばんの春 みやざきフラワーショー開催
- (S44) 宮崎県沿道修景美化条例・・・・・・・・・・・・・・・・ (44年前)
- (S54) 第34回国民体育大会 (宮崎国体)
- (S58) 新ひむかづくり運動県民会議発足
- (S63) みやざきフラワーフェスタに名称変更
- (H3) 全国花のまちづくりコンクール
- (H11) グリーン博みやざき開催
- (H12) フローランテ宮崎開園
- (H16) 景観法の制定

●宮崎県沿道修景美化条例

○目的

沿道において、すぐれた景観及び樹木その他の植物を保護するとともに、花木類の植栽等を行うことで、宮崎らしい「うるおい」と「やすらぎ」のある美しい道路環境の保全・創出に努める。

○指定地区等について

- ・沿道修景植栽地区 : 72地区
(道路敷における植栽群)
- ・沿道自然景観地区 : 18地区
(道路から見える良好な景観地区)
- ・沿道修景指定樹木 : 33か所
58本 (道路沿いの民地にある景観上重要な樹木)



国道268号野尻町 レンギョウ (S60撮影)

沿道修景植栽地区の指定

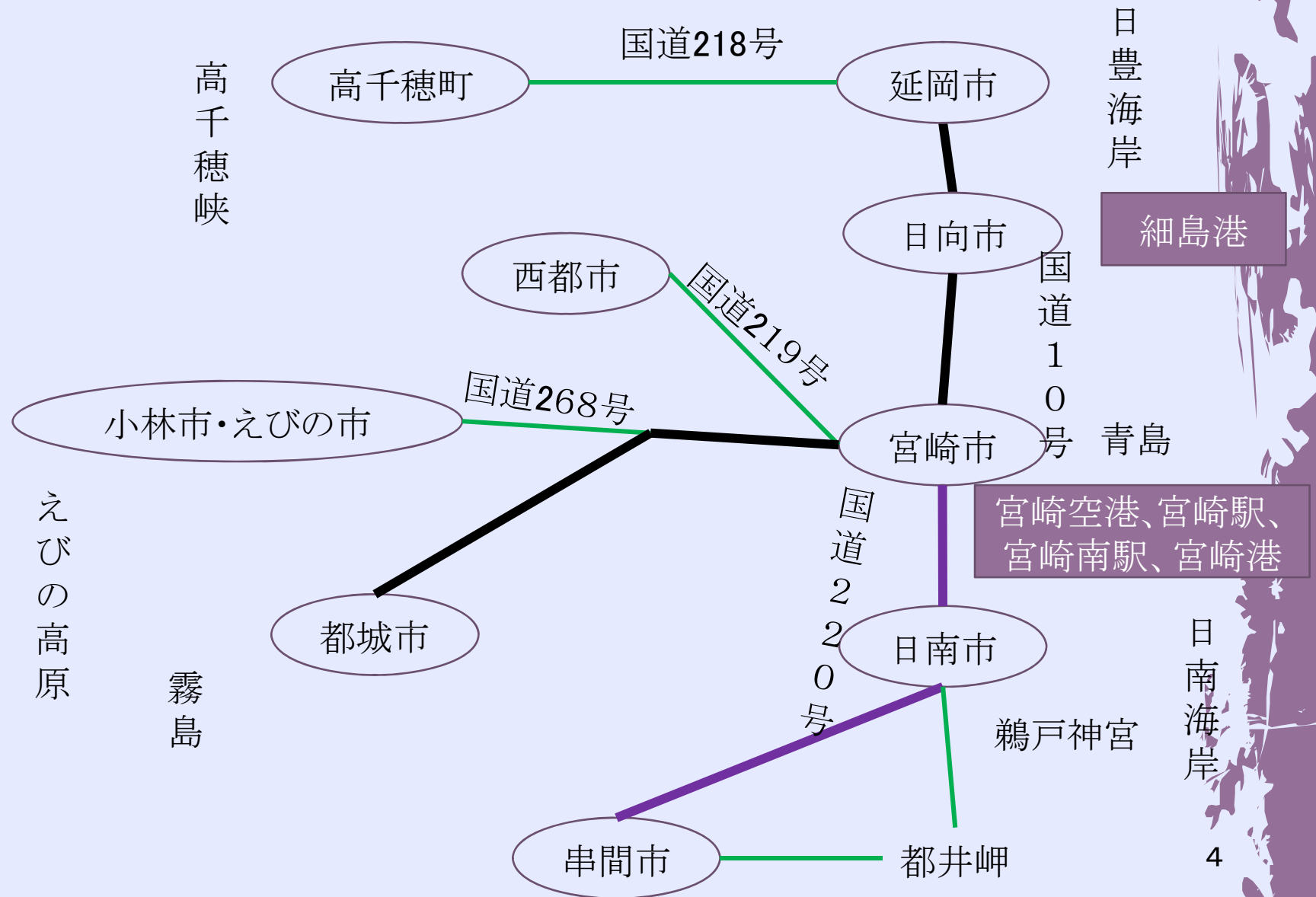
- ・全県公園化構想(昭和34年～)

国立・国定・県立自然公園、県立都市公園等を結ぶ道路も公園の一部である。

- ・県外からの観光客を意識した植栽

主要な観光地(日南海岸、霧島、日豊海岸など)と交通拠点(宮崎空港、宮崎駅、宮崎南駅、細島港、宮崎港)を線で結ぶ

◆ 沿道修景植栽地区



沿道修景植栽地区の植栽

- 花の咲く樹木を多様

さるすべり、アジサイ、サザンカ、椿、レンギョウ、コバノセンナ、コブシ など

- 四季を通じて沿道に花が見られる組み合わせ

- ◆ 海岸道路には、耐潮性の強い亜熱帯性植物を活用し南国的なイメージを演出

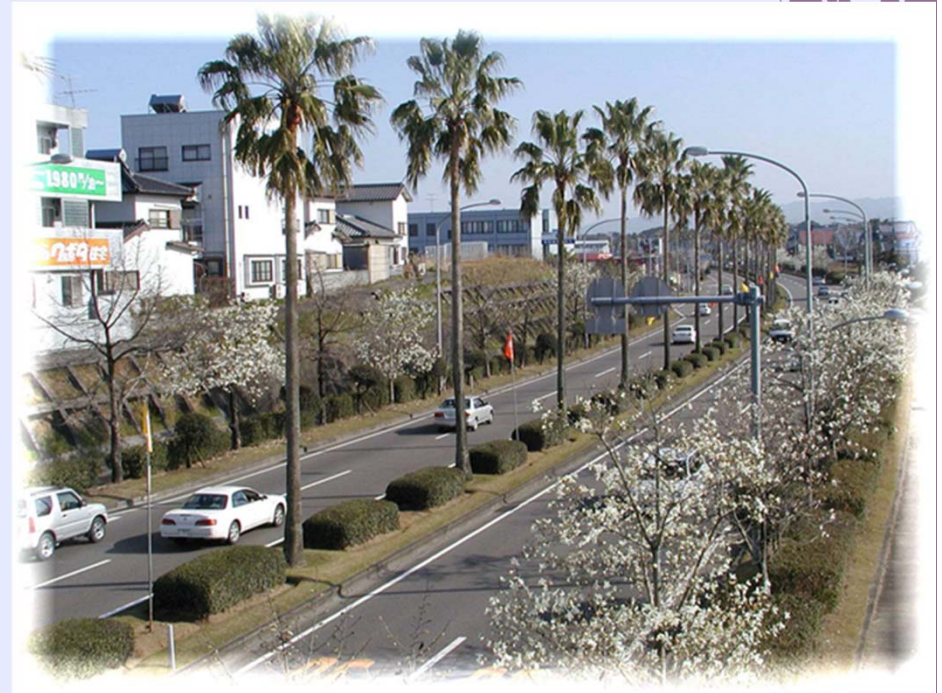
(青島のビロウ→フェニックス→ワシントンニアパーム)

- ◆ 交通拠点を結ぶワシントンニアパームの植栽

県内の沿道修景植栽地区の状況(1)



国道10号高鍋町 パンパスグラス
(植栽地区:日置・堀の内)



国道220号 南バイパス

県内の沿道修景植栽地区の状況(2)



小林えびの高原牧園線
小林市 ハクモクレン



宮崎空港線 宮崎市 女王ヤシ

沿道修景植栽地区の現状

- ◆ 昭和37年以来、県内の主要国県道における道路景観の保護育成を目的に、県、国、市町村、地元団体、民間企業等によって積極的に花木の植栽を実施してきた。
- ◆ 国道10号及び220号の維持管理が最も重要視されており、沿道修景に関する協定をとりかわし、国の協力を得ながら円滑な運営を図っている。
- ◆ 長い年月をかけて宮崎県全体(国・県・市町村・県民)で造り上げてきた良好な沿道景観を維持管理していかなければならない。

■ 特定修景地区

沿道修景を重点的に整備していく箇所



特定修景地区

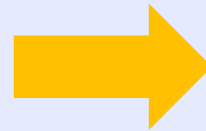
基本的な考え方

青島・日南海岸などの観光地及び宮崎駅や宮崎空港などの交通拠点を結ぶ区間

- 宮崎の気候に適応した丈夫な植物で、宮崎らしい魅力的な景観をつくる。
- 観光宮崎として、各名所にふさわしい景観をつくる。
- 四季を通じて宮崎らしい花の景観をつくる。

修景計画①

マメツゲを撤去し、カンナと芝等の緑でシンプルに補完し、カンナを引き立てる



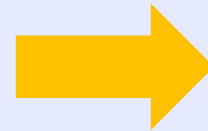
マメツゲ+カンナ+芝区間

マメツゲを撤去し、カンナのみとする

国道220号 南バイパス 空港～運動公園間

修景計画②

分離帯の幅内で自然樹形が保てるよう再配置する



マメツゲ+ツツジ区間

枯損の多いツゲを撤去し、ツツジを自然樹形で仕立てる

国道220号 南バイパス 空港～運動公園間

第3回 国道10号・220号の植栽と景観に関する検討会

調査検討資料

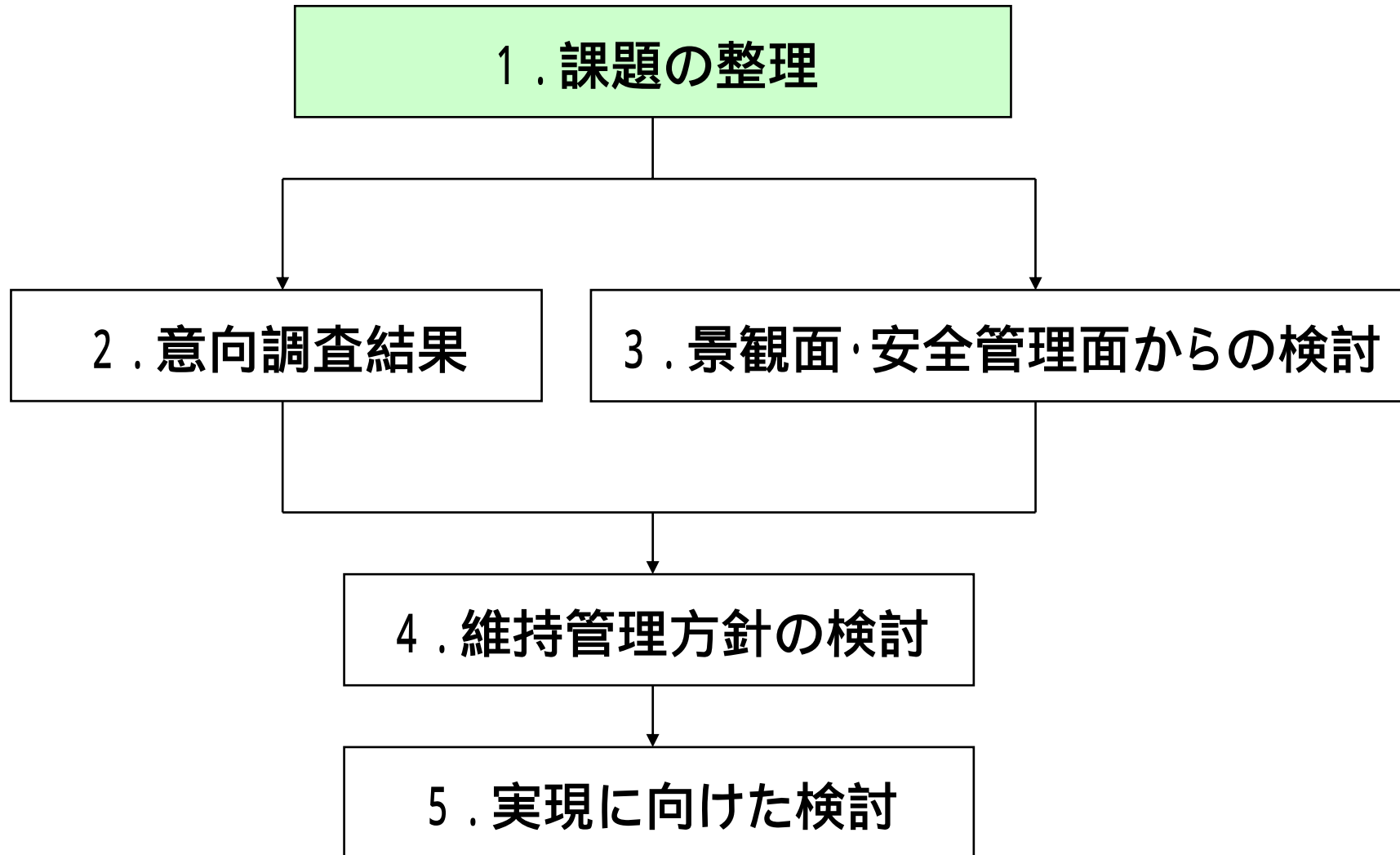
平成25年3月15日

九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

目次

本検討の進め方	1
1. 課題の整理	2
2. 意向調査結果	4
(1) 意向調査の全体概要	4
(2) 意向調査の集計・分析	6
(3) 意向調査のまとめ	15
3. 景観面・安全管理面からの検討	17
(1) 景観面からの検討	19
(2) 安全管理面からの検討	24
(3) 生態面(寿命)からの検討	26
(4) 景観面・安全管理面からの検討のまとめ	27
4. 維持管理方針の検討	29
5. 実現に向けた検討	31

本検討の進め方



1. 課題の整理

歴史・経緯(景観)

ワシントニアパームの道路への植栽の歴史
宮崎県における沿道修景の取組み

- ・フェニックスなどと共に「南国情趣豊かな観光地」となる道路景観の形成に寄与
- ・日南海岸～県都宮崎市を結ぶロードパークを形成
- ・沿道修景植栽地区に指定(条例)

生態

専門書による生態に関する情報
専門家からの生態に関する情報

- ・樹高30～35mに達する可能性あり
- ・寿命を推定することは困難
- ・病気による倒木の危険性あり

維持管理(安全)

ワシントニアパームの維持管理の現状

- ・植栽管理者(行政)による責任等
- ・造園業者による現場での具体的作業
- ・枯れ枝の落下による事故の発生
- ・剪定作業の手間がかかる
- ・高くなる樹高への対応

【検討会意見】

景観面

景観の歴史・象徴性

- ・県外客は空港からワシントニアパームを見て南国的な印象を受けるとい人が多い。
- ・ワシントニアパームのある道路景観は、30年以上かけて培われたもの。
- ・宮崎のアイデンティティを大切にしながら考えていくべき。
- ・現状だけではなく、将来を見据えた時間軸(過去 現在 未来)で捉える必要がある。

樹種の景観的個性

- ・ワシントニアパームのある道路景観の特徴は「高さ」と「連続性」である。

安全・管理面

倒木の懸念

- ・寿命により、ワシントニアパームが突然倒れるようなことは避けなければならない。
- ・風に強く倒れにくい。根が定着せず倒れた事例はある。

管理手間の増加

- ・このままの状態で伸び続ければ、維持管理の手間が大変になる一方である。これ以上、樹高が高くなると大型の作業車が必要になる。
- ・場所によって優先度をつけて管理方法を変えることも考えれる。

等

課 題

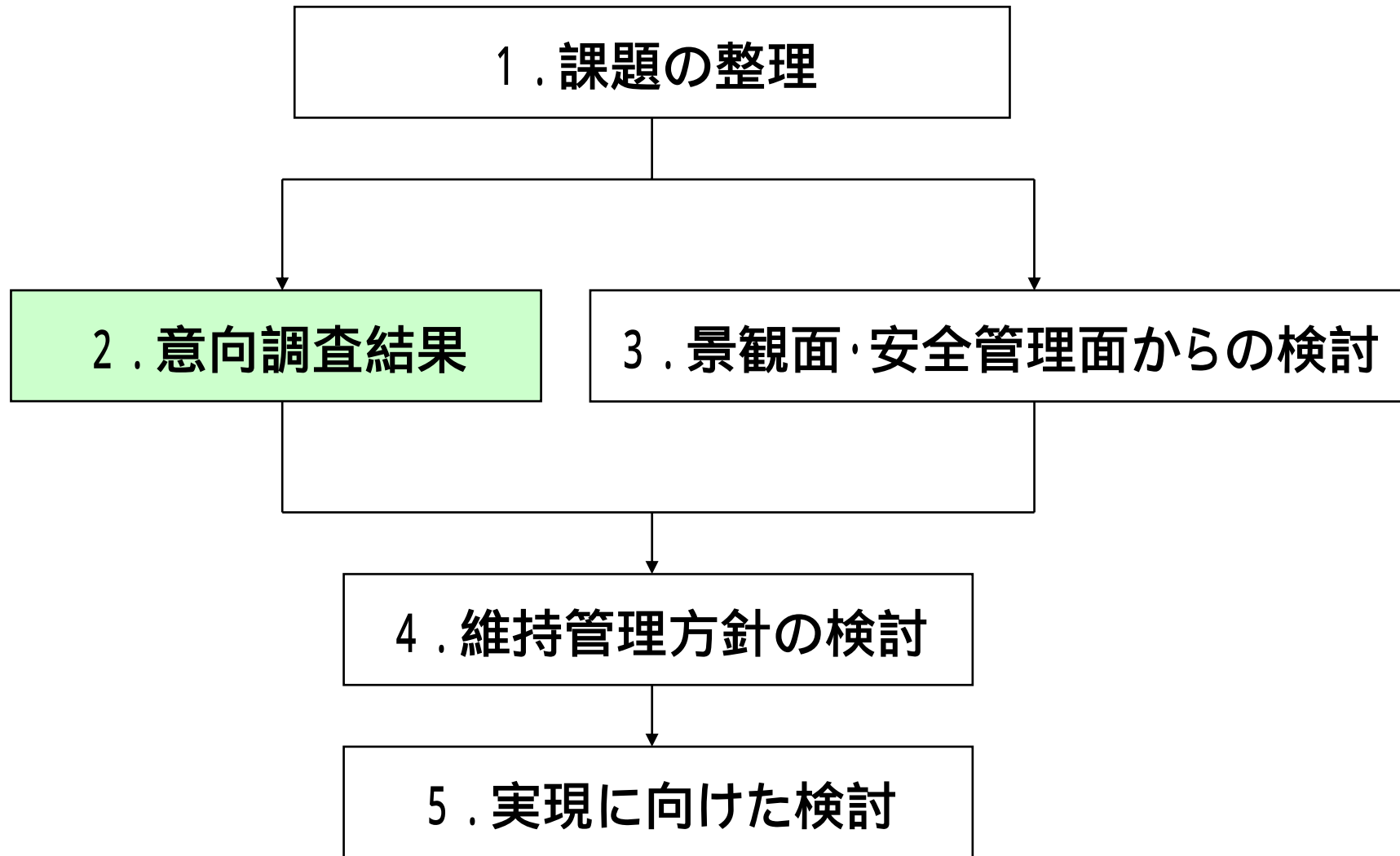
地域景観の継承

【景観的な価値を保ちつつ継承していく必要がある】

景観と安全の両立

安全・管理の確保

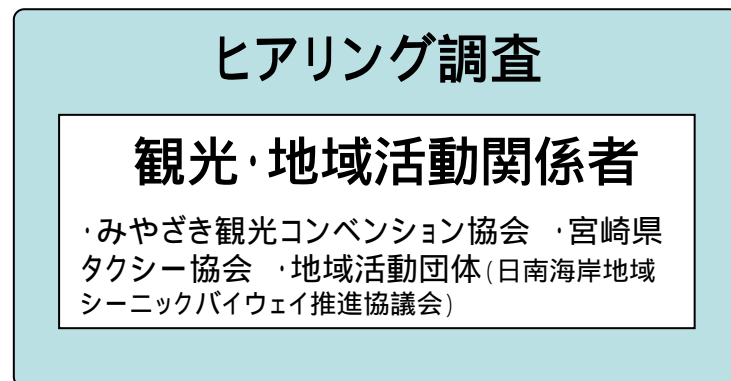
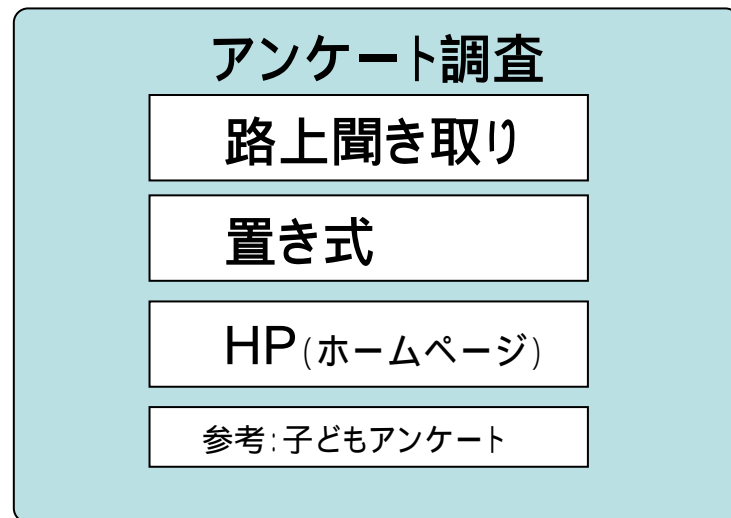
【安全性と管理手間を考慮した持続可能な管理が必要】



2. 意向調査結果

(1) 意向調査の全体概要

アンケート調査 : 一般市民や観光客等を対象とし、3手法のアンケート調査を実施。
併せて子どもたちのワシントニアパークに対する認識を把握。
ヒアリング調査 : 観光・地域活動関係者を対象とし、ヒアリング調査を実施。



【質問内容】

1. ワシントニアパークの価値観
2. ワシントニアパークのある道路景観が印象的な場所
3. 交通安全性と維持管理の関係
4. 維持管理方法の方向性

今後の維持管理に向けた方向性

ヒアリング調査の概要

実施日：平成25年1月11日および13日

対象：下記3団体

- ・みやざき観光コンベンション協会
 - ・宮崎県タクシー協会
 - ・地域活動団体
- (日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会)

路上聞き取りアンケートの概要

実施日：平成24年11月25・26日の2日間

調査員が市民や観光客等に対し、対面式で意向を聞き取り

調査場所：下図参照(5箇所)

橘通り(みやざき
アートセンター)

宮交バスセンター



拡大

POINT

道の駅「フェニックス」

宮崎空港

置き式・HPアンケートの概要

実施期間：H24年11月26日～H25年1月25日

リーフレットの配布(住民等への意識啓発)

・維持管理の問題を広く周知。

(宮崎市自治会各班に配布)

・リーフレットにより、ご意見募集を呼びかけ。

アンケート

置き式アンケート(紙で回答)

(宮崎市役所・みやざきアートセンター・

宮崎河川国道事務所・宮崎維持出張所の4箇所に設置)

HPアンケート(PCで回答)



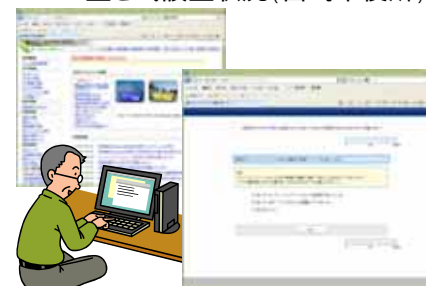
アンケート用紙



リーフレット



置き式設置状況(宮崎市役所)



宮崎河川国道事務所HPに掲載

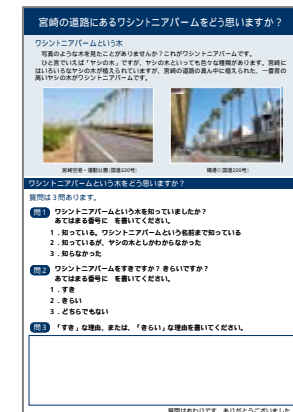
子どもアンケートの概要

実施期間：平成25年1月28日～31日

市内小学校2校の5-6年生を対象に実施

小戸小学校・西池小学校

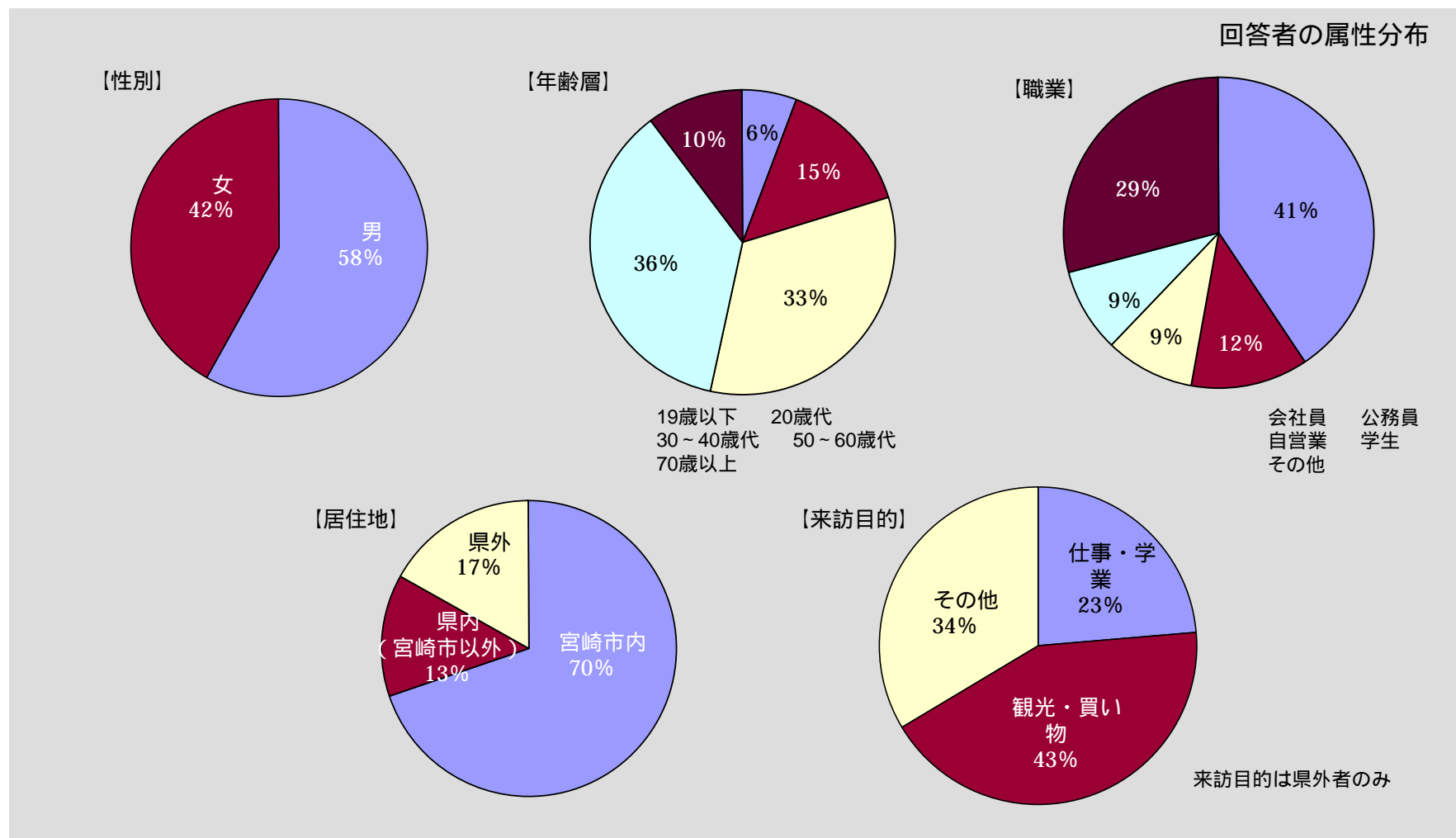
アンケート用紙(子供用)



(2) 意向調査の集計・分析

アンケート調査の結果(全体要旨)

	全体	路上聞き取り	置き式	HP
回答者数(人)	1,605	754	430	421

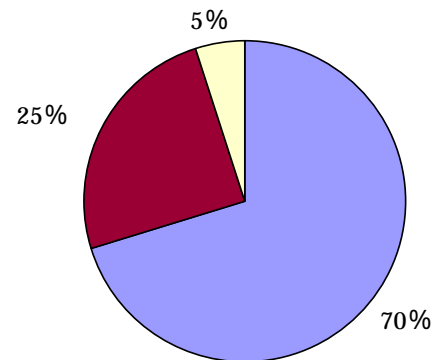


ワシントニアパームの価値観

アンケート

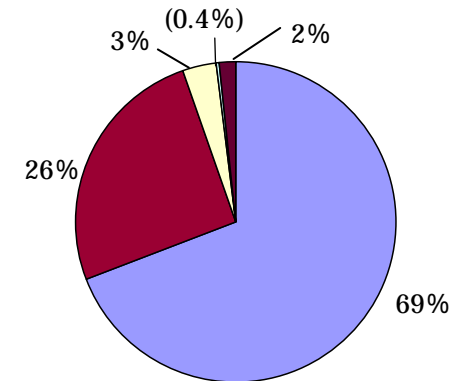
ワシントニアパームを7割の人たちが認知している。
約7割の人たちがワシントニアパームを「宮崎らしい(象徴している)」と感じている。

ワシントニアパームの認知



知っている。
(ワシントニアパームの名称まで)
知っているが、ヤシの木としか認識していなかった。
知らなかった。

ワシントニアパームと宮崎らしさ



宮崎らしい(象徴している)と思う。
必ずしも宮崎らしい(象徴している)とは思わないが、南国的なイメージを感じる。
宮崎らしい(象徴している)とは思わない。
その他
わからない。

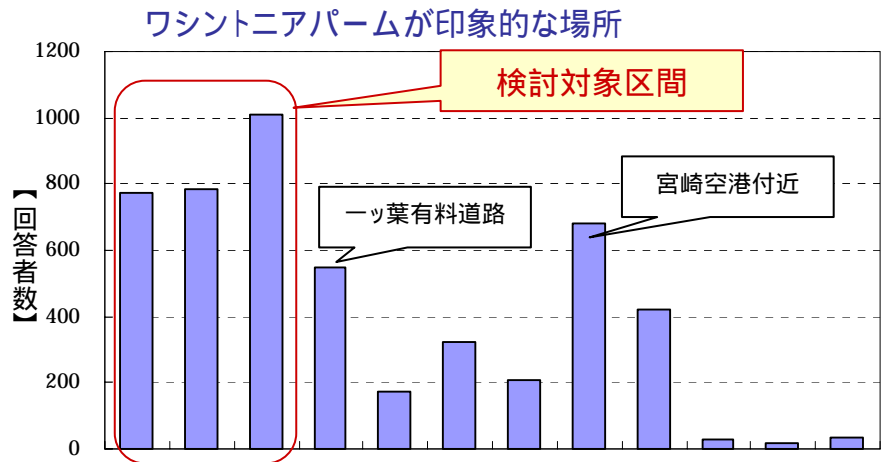
ヒアリング

- ・他の地域にない**個性的**なものとして、**宮崎の顔**となっている。
- ・来訪者に南国という印象を与え、**観光的にも欠かせない大切な要素**となっている。

ワシントニアパームの認知度は高く、ワシントニアパームがある道路は、**宮崎を象徴する道路景観**として定着している。

ワシントニアパークのある道路景観が印象的な場所

アンケート



宮崎の中でも、ワシントニアパークが印象的な場所として検討対象区間(国道10号・220号)との意見が多い。
次いで、宮崎空港付近、一ッ葉有料道路が選ばれている。

橋通り(国道220号) 宮崎インター~空港付近(国道220号)
宮崎空港~運動公園(国道220号) 一ッ葉有料道路
宮崎島之内線(イオンの前の通り) 宮崎駅付近
南宮崎駅付近 宮崎空港付近 宮崎県総合運動公園
その他 特にない わからない

ヒアリング

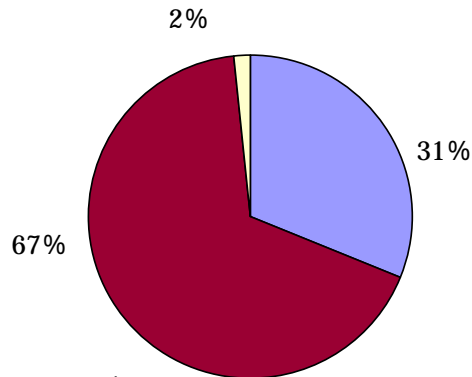
・連続した植栽が印象的であり、どの区間の優先度が高いということではなく、検討対象区間全体の優先度が高い。

宮崎市の中でも検討対象区間は、ワシントニアパークが印象的と感じられている。

安全性と維持管理の関係

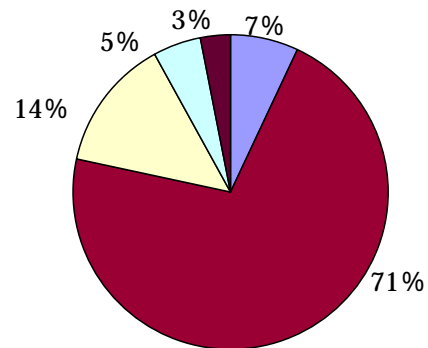
アンケート

危険と思った経験



ある。
ない。
通ったことがない。またはワシントニアパームがあることを知らない。

安全確保のための管理のあり方



落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)
引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。
枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。
その他
わからない

枯れ枝の落下で危険と思った経験がある人が約3割を占める。
道路の安全性確保のため、引き続き今と同様の管理を行うべきとの回答が7割を占める。

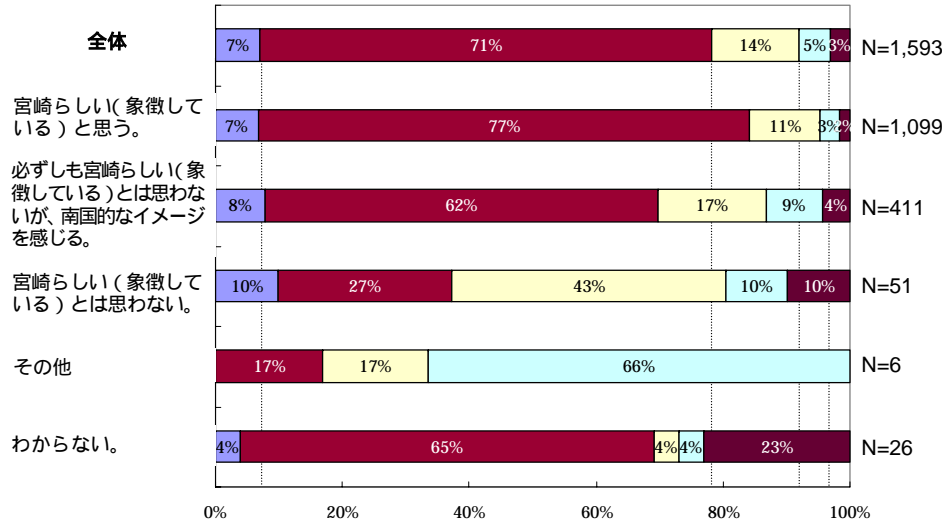
ヒアリング

- ・枯れ枝の落下に対するクレーム等が問題となっているという話は聞かない。
- ・交通安全性は重要なことであり、これまでと同様にしっかりと管理が必要。

枯れ枝の落下による危険防止のために、引き続き今の管理レベルを維持すべきとの意見が多い。

参考: アンケートクロス集計

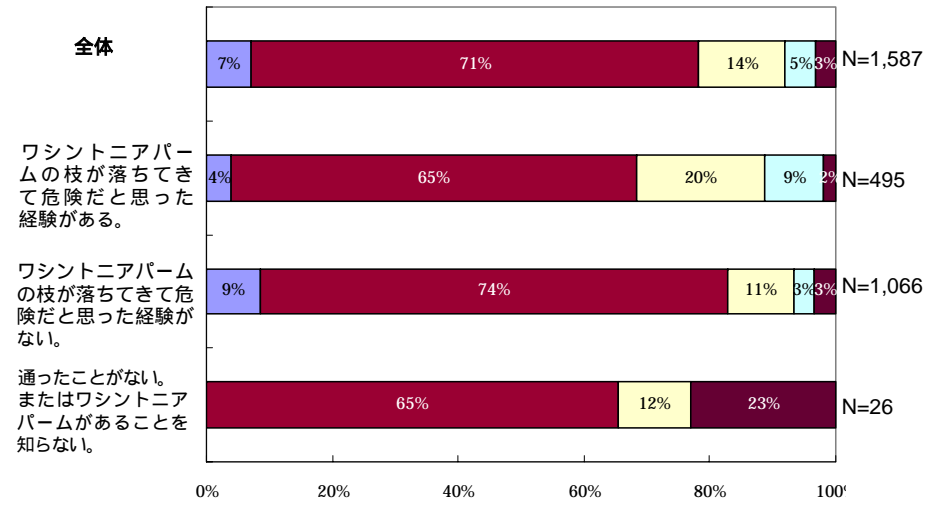
宮崎らしさ × 安全確保のための管理のあり方



- 落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)
- 引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。
- 枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。
- その他
- わからない。

	落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)	引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。	枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。	その他	わからない。	合計
全体 (比率)	112人 (7%)	1135人 (71%)	219人 (14%)	79人 (5%)	48人 (3%)	1593人 (100%)
	74人	850人	123人	33人	19人	1,099人
	32人	253人	72人	36人	18人	411人
	5人	14人	22人	5人	5人	51人
	0人	1人	1人	4人	0人	6人
	1人	17人	1人	1人	6人	26人

危険と思ったことのある経験 × 安全確保のための管理のあり方



- 落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)
- 引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。
- 枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。
- その他
- わからない。

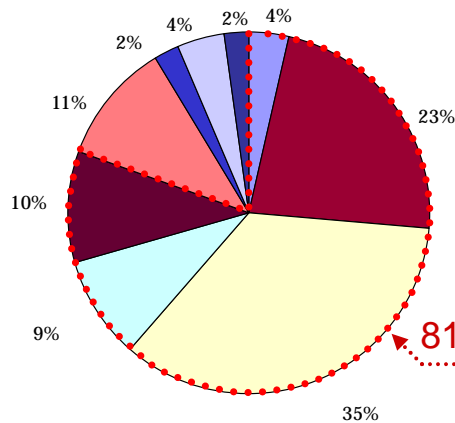
	落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)	引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。	枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。	その他	わからない。	合計
全体 (比率)	111人 (7%)	1130人 (71%)	217人 (14%)	80人 (5%)	49人 (3%)	1587人 (100%)
	19人	322人	101人	46人	7人	495人
	92人	791人	113人	34人	36人	1,066人
	0人	17人	3人	0人	6人	26人

維持管理方法の方向性

アンケート

今後の維持管理に向けた方向性(更新計画)

順次、樹高が低く若いワシントニアパームにするという意見も多い。次いで、費用がかかっても今の管理を続けるべきとの意見が多い。管理しやすい別の樹種への植え替え意見は少ない。植栽は全て撤去すると回答した人は極めて少数である。



ワシントニアパームを新たに植えて、更に増やす。
管理費用が増加しても、今の管理を続ける。
樹高が低く若いワシントニアパームに、順次植え替える。
今のワシントニアパームを間引いて本数を減らし、今の管理を続ける。
残す区間を限定することで本数を減らし、残したワシントニアパームについて今の管理を続ける。
ワシントニアパームより管理がしやすい別の樹種に、順次植え替える。
ワシントニアパームを含め、植栽は全て撤去する。
その他 → わからない

植え替えたい他の樹種
・フェニックス ・ソテツ
・カヤ ・ビロウ ・桜
・人口の木
・県花など宮崎ゆかりのもの 等

管理方法
・高さを合わせて管理する。
・ボランティア等、やり方によるのではないか。
・成長を止めるべきだと思う。
・間に植えていき成長したら元の木を撤去する。
植栽の場所
・より宮崎らしくなるように、植える場所を増やす。
・国道は木を撤去し、大淀川沿いに植え替える。
・場所によって増減させる。 等

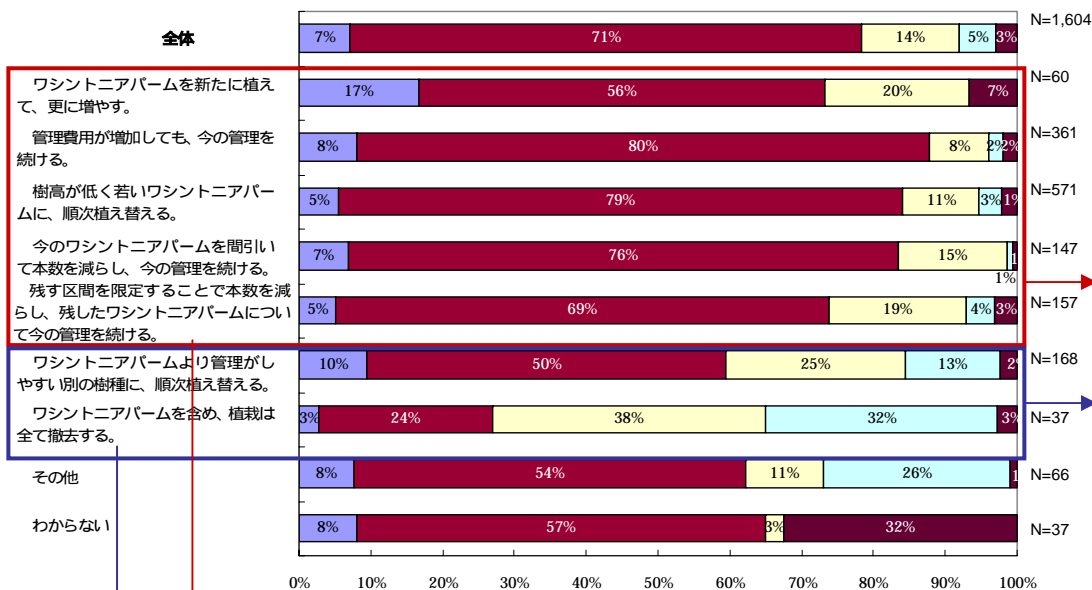
ヒアリング

- ・ワシントニアパームは地域を象徴するものであり、単純に樹種を変えるようなことは賛成できない。
- ・管理コストを考慮しながら景観イメージを継続して行ってほしい。
 - ・維持管理コストを考慮しながら適切な高さで新しいものに植え替える。
 - ・やむを得ず樹種を変える場合でも、観光的なイメージが損なわれないようにする。

何らかの方法でワシントニアパームがある道路景観を守ってほしいとの意向が強い。
中でも、樹高が低く若いワシントニアパームに順次植え替えるという意見が多かった。

参考: アンケートクロス集計

安全確保のための管理のあり方 × 今後の維持管理の方向性 (更新計画)



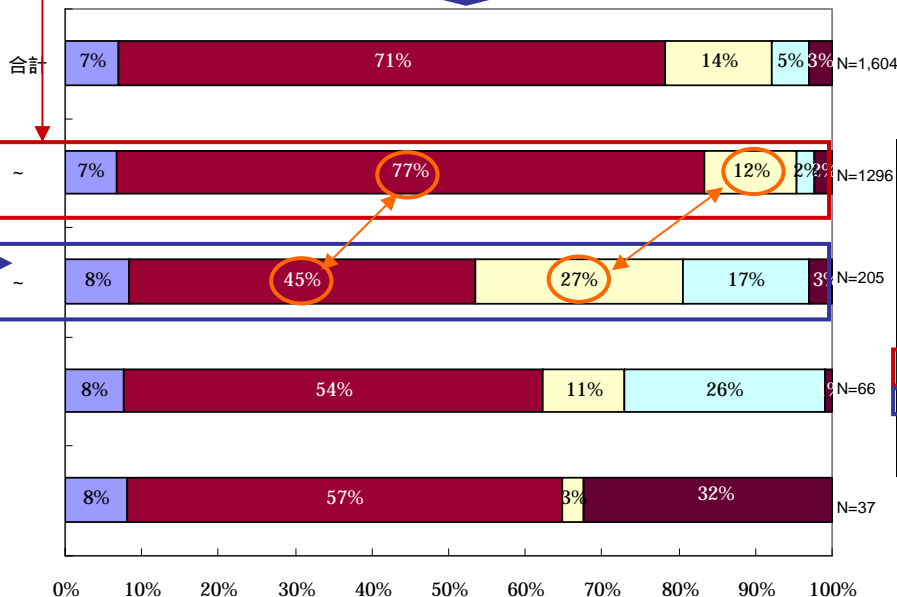
ワシントニアバームのある道路景観を維持していく方向性に意見の人は、引き続き今と同様の管理を行う意見の割合が高い(77%)

ワシントニアバームのある道路景観の維持にはこだわらない方向性の人は、枯れ枝が一切落ちないような措置をすべきとの意見傾向が見られる(27%)

ワシントニアバームのある道路景観を維持していく方向性の意見

ワシントニアバームのある道路景観の維持にはこだわらない方向性の意見

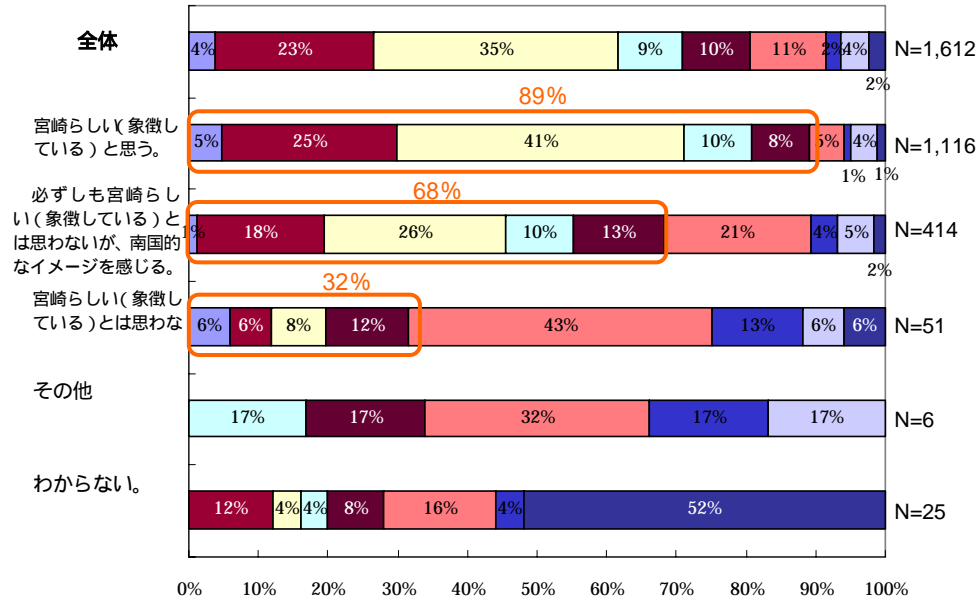
- 落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)
- 引き続き今と同様の落下防止作業を行うべき。
- 枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行うべき。
- その他
- わからない。



	落下防止作業は行わなくてよい。(植物だから枯れ枝が落ちてきても仕方ない)	引き続き今と同様の落下防止作業を行う。	枯れ枝が一切落ちないような落下防止作業を行う。	その他	わからない。	合計
全体 (比率)	113人(7%)	1143人(71%)	220人(14%)	81人(5%)	47人(3%)	1604人(100%)
~	88人	993人	156人	30人	29人	1,296人
~	17人	93人	56人	34人	5人	205人
~	5人	36人	7人	17人	1人	66人
~	3人	21人	1人	0人	12人	37人

参考: アンケートクロス集計

宮崎らしさ × 今後の維持管理に向けた方向性 (更新計画)



何らかの方法でパームのある道路景観を維持していく方向性の意見を持っている人の割合
 宮崎らしいと思う 89%
 宮崎らしいとは思わないが南国的なイメージ 68%
 宮崎らしいと思わない 32%

- ワシントンアパームを新たに植えて、更に増やす。
- 管理費用が増加しても、今の管理を続ける。
- 樹高が低く若いワシントンアパームに、順次植え替える。
- 今のワシントンアパームを間引いて本数を減らし、今の管理を続ける。
- 残す区間を限定することで本数を減らし、残したワシントンアパームについて今の管理を続ける。
- ワシントンアパームより管理がしやすい別の樹種に、順次植え替える。
- ワシントンアパームを含め、植栽は全て撤去する。
- その他
- わからない

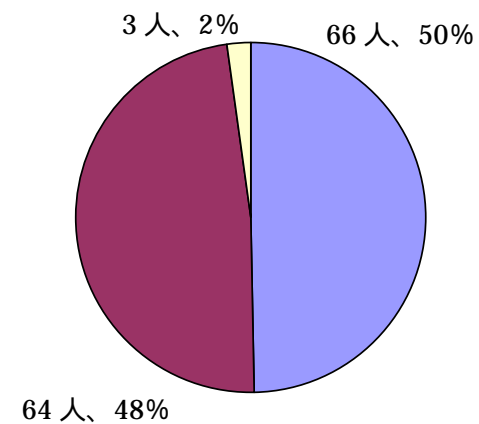
ワシントンアパームのある道路景観を維持していく方向性の意見

	ワシントンア	管理費用が	樹高が低く若	今のワシント	残す区間を	ワシントンア	ワシントンア	その他	わからない	全体
合計 (比率)	60人 (4%)	362人 (23%)	572人 (35%)	150人 (9%)	159人 (10%)	169人 (11%)	36人 (2%)	67人 (4%)	37人 (2%)	1612人 (100%)
	52人	281人	460人	108人	94人	54人	11人	42人	14人	1,116人
	5人	75人	107人	40人	56人	87人	16人	21人	7人	414人
	3人	3人	4人	0人	6人	22人	7人	3人	3人	51人
	0人	0人	0人	1人	1人	2人	1人	1人	0人	6人
	0人	3人	1人	1人	2人	4人	1人	0人	13人	25人

参考:子どもアンケート結果

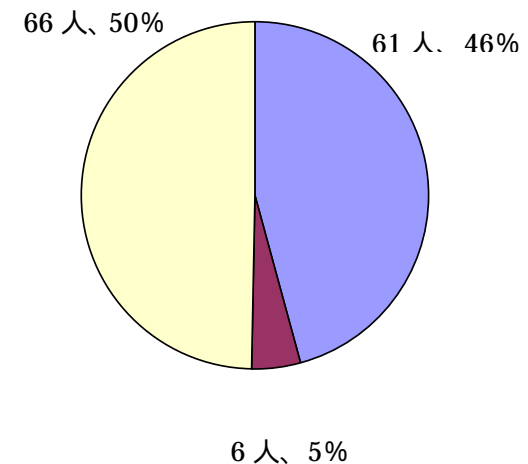
問1. ワシントニアパームという木を知っていましたか？

- 知っている。ワシントニアパームという名前まで知っている。
- 知っているが、ヤシの木としかわからなかった。
- 知らなかった。



問2. ワシントニアパームを好きですか？ きれいですか？

- すき
- きれい
- どちらでもない



ワシントニアパームが好きな理由として、上位を占めるものは以下の通り。

宮崎らしい(35%)

背が高い(28%)

南国らしい(14%)

自然を感じられる(7%)

(3) 意向調査のまとめ

ワシントニアパームの価値観

ワシントニアパームの認知度は高く、ワシントニアパームがある道路は、宮崎を象徴する道路景観として定着している。

ワシントニアパームのある道路景観が印象的な場所

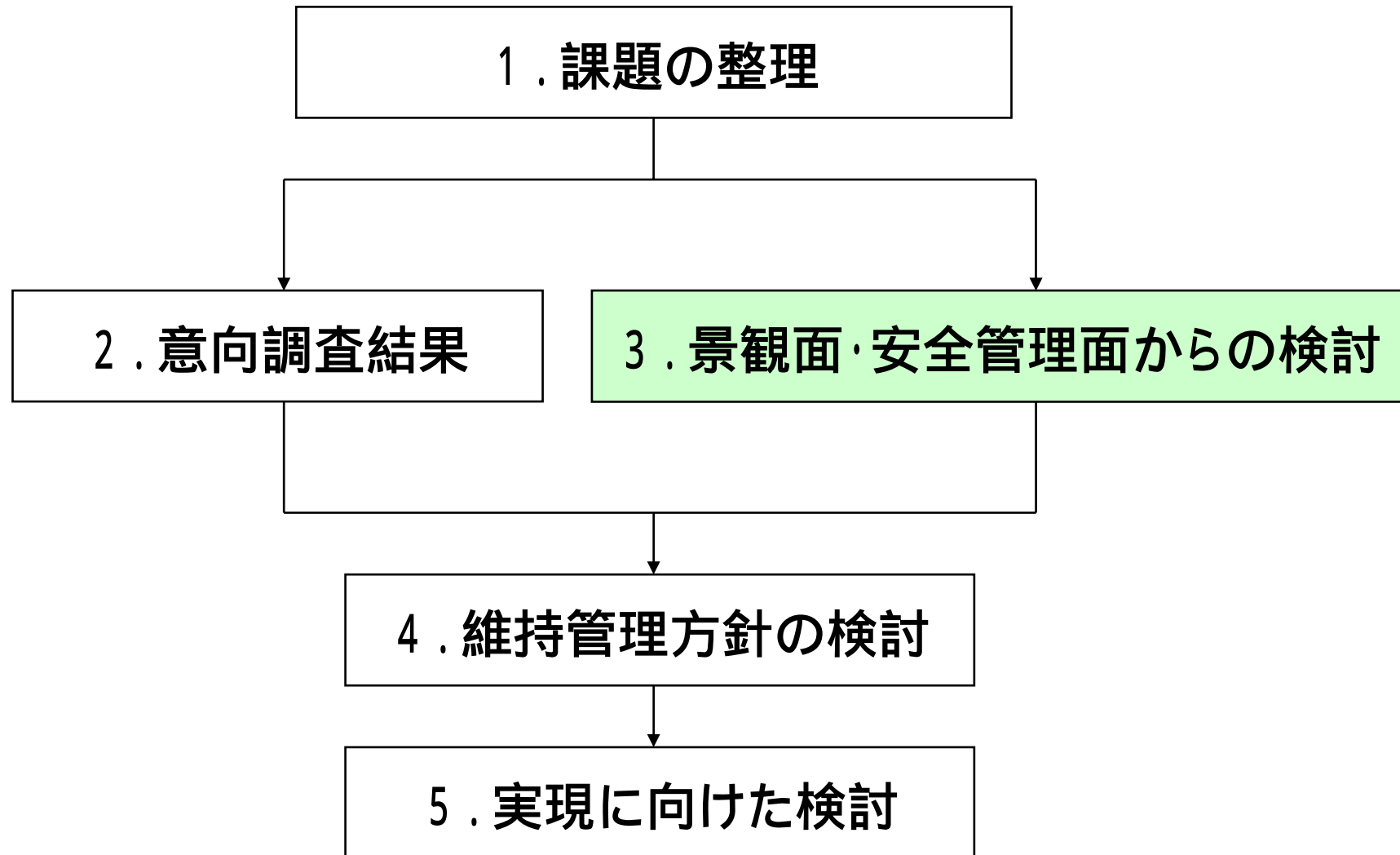
宮崎市の中でも検討対象区間は、ワシントニアパームが印象的と感じられている。

安全性と維持管理の関係

枯れ枝の落下による危険防止のために、引き続き今の管理レベルを維持すべきとの意見が多い。

維持管理方法の方向性

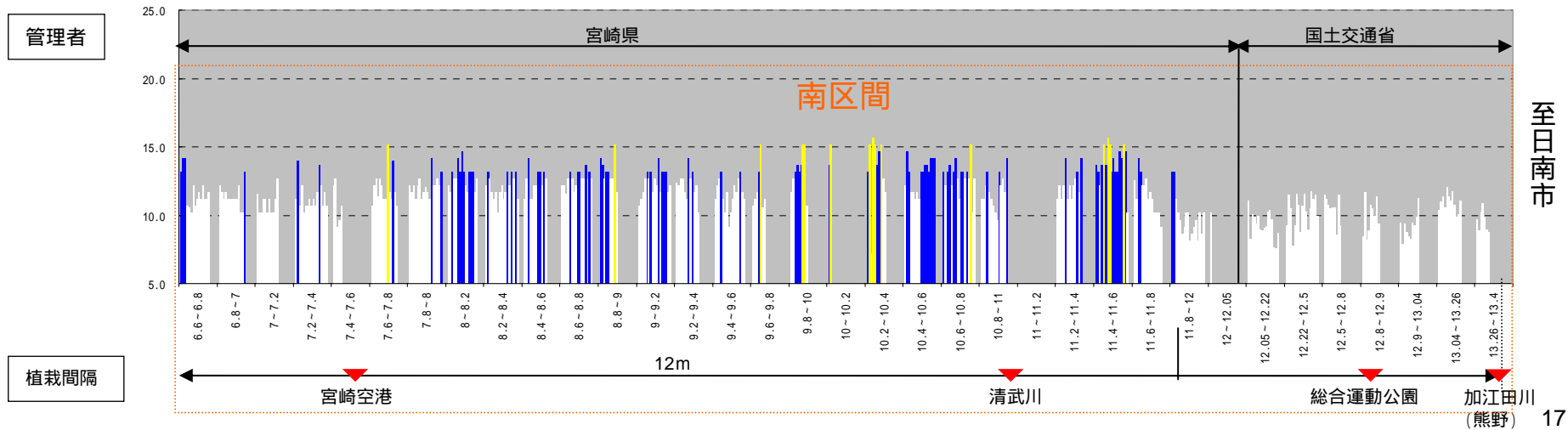
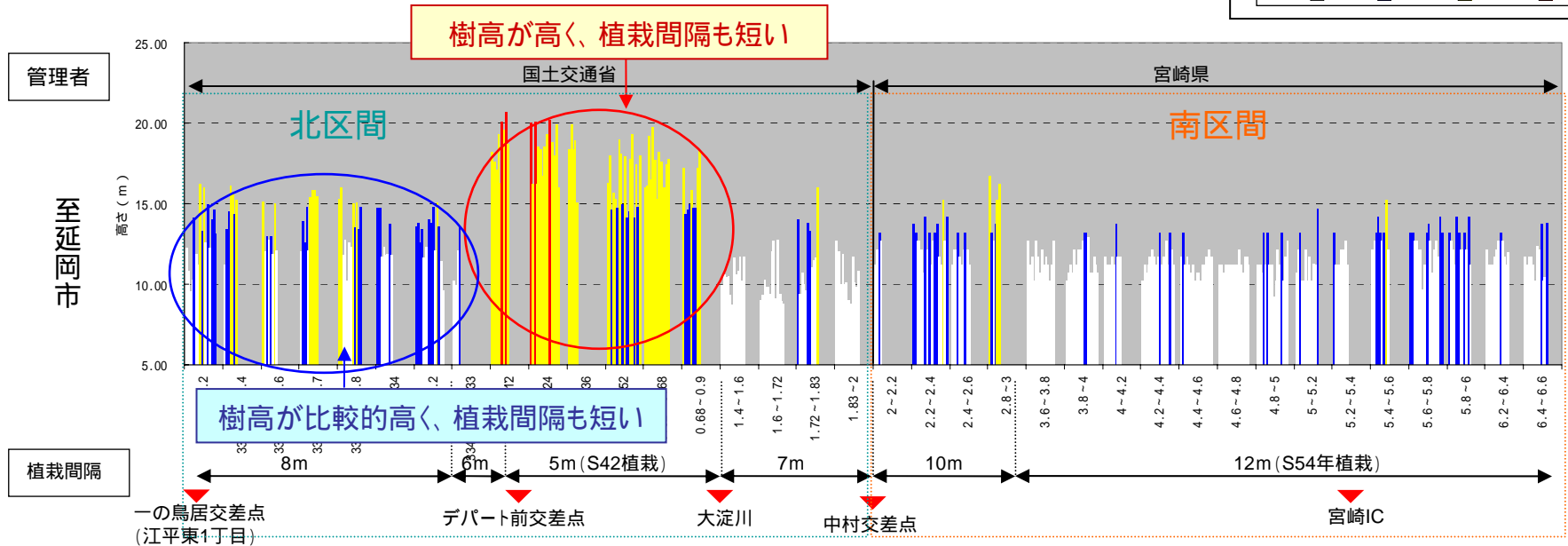
何らかの方法でワシントニアパームがある道路景観を守ってほしいとの意向が強い。
中でも樹高が低い若いワシントニアパームに順次植え替えるという意見が多かった。



3. 景観面・安全管理面からの検討

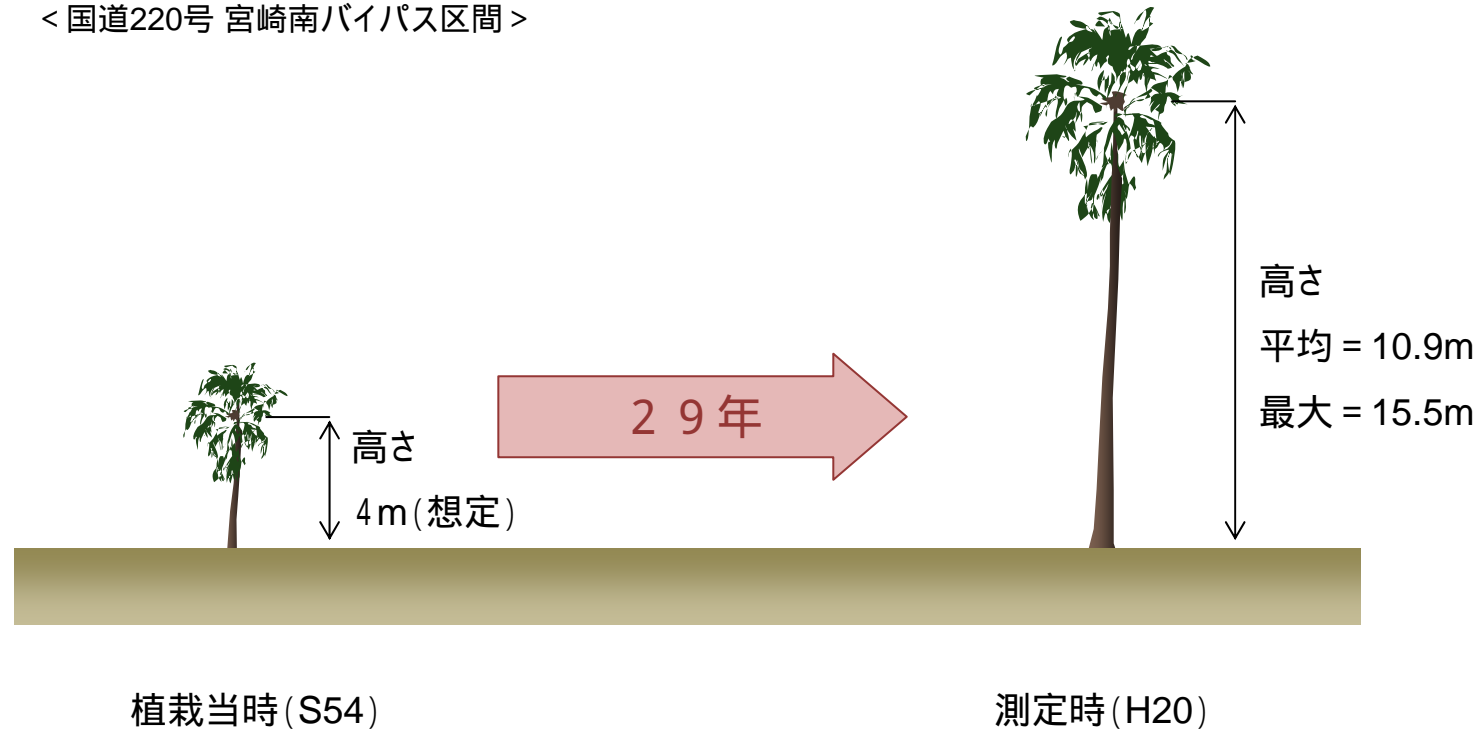
樹高・植栽間隔の基礎データ

・樹高は、最新測定の日25年1月時点。但し、宮崎県管理区間は、H20年測定データからの推定値(例:H20年測定値+5年×0.24m)



ワシントニアパームの成長量

< 国道220号 宮崎南バイパス区間 >



年平均成長量 = (10.9m - 4m) ÷ 29年 約0.24m/年

年最大成長量 = (15.5m - 4m) ÷ 29年 約0.40m/年

(1) 景観面からの検討

ワシントニアパームがある道路景観が印象的とされる理由の考察

- ・拠点間を結ぶ動線上(基幹道路)に植栽されている → 【見られる機会も多い】
- ・長い区間にわたって連続植栽されている → 【群としての存在感がある】
- ・地域の中でも背が高い → 【パーム自体の存在感も大きい】
- ・中央分離帯に連続植栽されて目立つ → 【見通しがよく目立つ】
- ・ある程度の高さを感じ、安定感もある → 【樹形や道路空間のバランスが良い】



デパート前～大淀川(橋通り:国道220号)



宮崎インター～空港付近(国道220号)



宮崎空港～総合運動公園(国道220号)

「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」が
ワシントニアパームのある道路景観を印象的にしている

一般街路樹との違い



宮崎北バイパス



宮崎南バイパス



国道10号(江平西付近)

一般街路樹(高木・低木)とワシントニアパームの道路緑化機能への充足度

【凡例】

十分に機能を充足する

機能を充足する

機能に寄与する

- ほとんど機能しない

機能項目		機能の概要	緑化機能の充足度		
項目	細目		一般		ワシントニアパーム
			高木	低木	
景観向上機能	-1: 装飾機能	・姿・形の美しい植物の導入により景観向上を図る植栽			
	-2: 遮蔽機能	・景観的に望ましくないものを隠す植栽			
	-3: 景観統合機能	・街路樹(並木)等、景観にまとまりを持たせる植栽			
	-4: 景観調和機能	・周辺自然と同化融合を図る植栽			
生活保全機能		・物理的あるいは視覚的心理的に騒音低減をもたらす植栽			
緑陰形成機能		・樹木の枝葉が上空を覆い、寒暖や乾湿等を緩和する		-	-
交通安全機能	-1: 遮光機能	・対向車のヘッドライトによる眩惑を遮る植栽	-		-
	-2: 視線誘導機能	・車道線形に合わせて植栽し、運転者に線形を予知させる			
	-3: 交通分離機能	・道路の乱横断等を予防する植栽	-		-
	-4: 指標機能	・特徴的な姿や形によって、その場所の目印とする植栽			
自然環境保全機能		・既存林の伐採等、自然改変を補完する植栽			

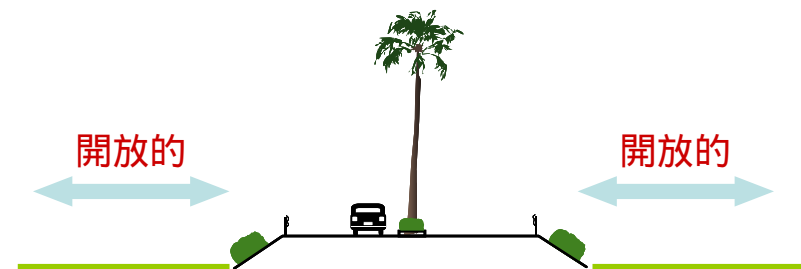
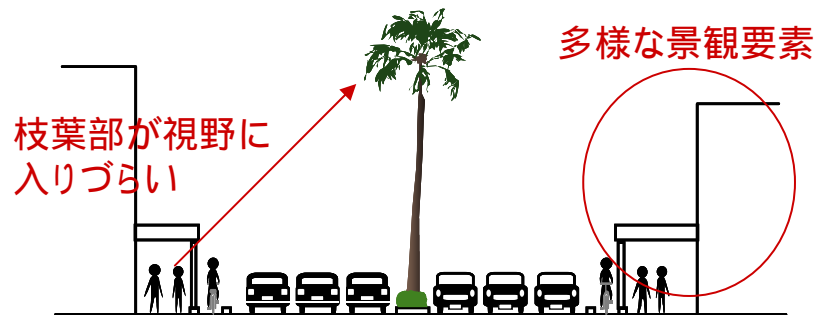
ワシントニアパームは特徴的な樹高や樹形から「景観統合機能」「視線誘導機能」「指標機能」に優れる

上記機能は、道路緑化技術基準(社団法人 日本道路協会)を参考に整理したもの。

緑化機能の充足度については、同基準に記載されているものではなく、樹木の景観的特徴から事務局が評価したもの。

検討対象区間の中でも宮崎空港～総合運動公園間が印象的とされる理由の考察

	デパート前交差点～大淀川<橋通り> (北区間の代表)	宮崎空港～総合運動公園 (南区間の代表)
代表写真	<p>建物やアーケード等の存在感が大きい 枝葉部が見えない</p>	<p>カーブが強調される (視線誘導) 空を背景にして印象的な存在</p>
高さ	平均樹高: 17.3m (H25.1実測値)	平均樹高: 11.8m (H25.1推定値)
周辺	市街地	農耕地
見え方	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な景観要素(建物、アーケード等)の中の一要素として、ワシントニアパームが存在。 ・樹高が高く、枝葉部が視野に入りづらい。(幹部しか見えない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・開放的な空間の中で、空を背景にしたワシントニアパームの存在が、より印象的(目立つ)。 ・比較的樹高が低く、枝葉部も視野に入りやすい。 ・カーブ(道路線形)をパームが強調して視線誘導効果が得られ、安全安心で快適な道路走行景観となっている。



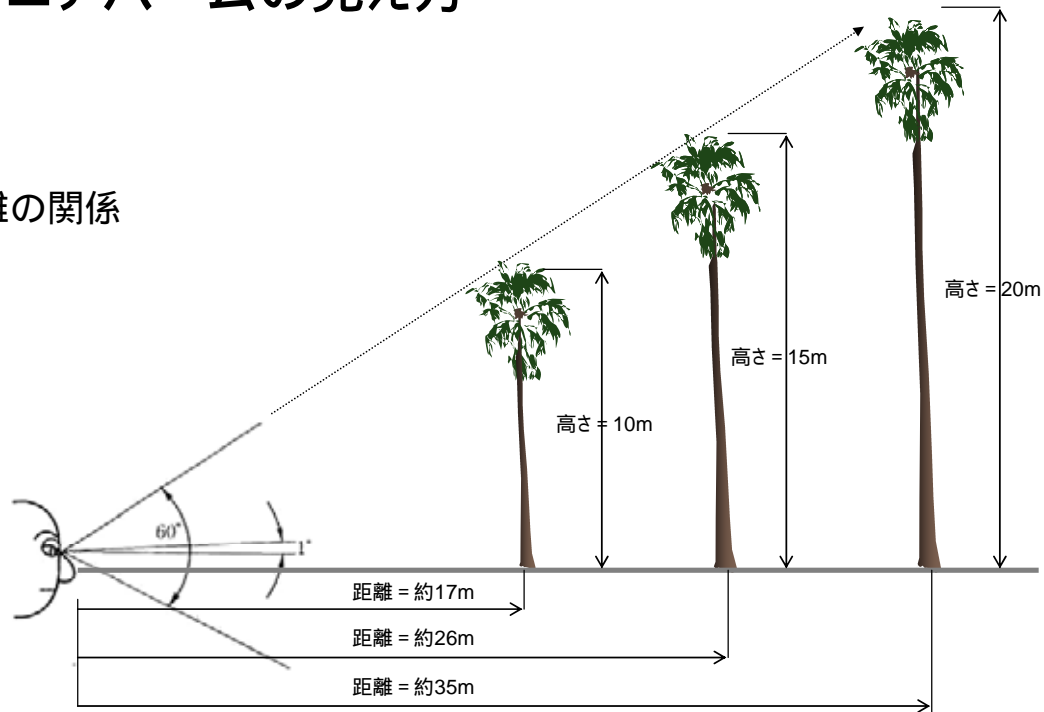
視野60° コーン説に基づくワシントニアパームの見え方

参考文献: 新体系土木工学59土木景観計画

参考: ワシントニアパーム樹高(枝葉部)と距離の関係

- ・高さ10m 視点と対象物の距離 = 約17m
- ・高さ15m 視点と対象物の距離 = 約26m
- ・高さ20m 視点と対象物の距離 = 約35m

樹高20mに達すると枝葉部が視野60°から外れ、見える範囲が少なくなる。



上下(天地)の画角を60°で設定したCG画像

象徴性を確保するために必要な樹高の考察

- ・ワシントニアパームの景観的特徴として「高さ」と「姿」が挙げられる。
- ・低いときは姿がビロウにも類似しており、現在よりも象徴性に劣る。
- ・地域アイデンティティを感じる道路景観とするためには、ワシントニアパームの存在感が感じられるように、ある程度の高さまで成長させることが望ましい。

「ワシントニアパームのある道路景観」を感じさせるには
樹高**10m ~ 15m**程度以上が望ましい



ビロウ

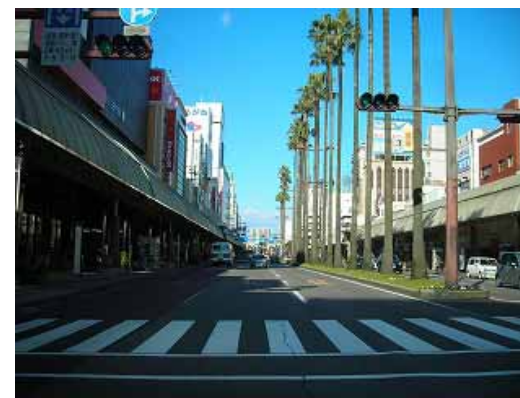
樹高10mになるまでには
(樹高10m - 植栽時4m) ÷ 年間平均成長量0.24m **約30年**
(植栽後)



空港ランプ付近 (S54年植栽当時)



本郷南方付近 (宮崎空港 ~ 総合運動公園)



橋通り付近 (デパート前 ~ 大淀川)

(2) 安全管理面からの検討

重機の転倒防止の観点(アウトリガ張出幅)

- ・中央分離帯側1車線(追い越し車線)を規制して高所作業車を用いた管理作業を行っている。
- ・高所作業車で作業を行う際、車体を安定させるためにアウトリガを張り出す。
- ・樹高が高くなると大型の高所作業車が必要になり、アウトリガ張り出し幅も大きくなる。

1車線規制幅で作業可能な高所作業車

最高到達高さ32m

現在使用している高所作業車は、最高到達高さ27mであるが、1車線規制幅の中でワンサイズ大きい32mの高所作業車まで作業可能

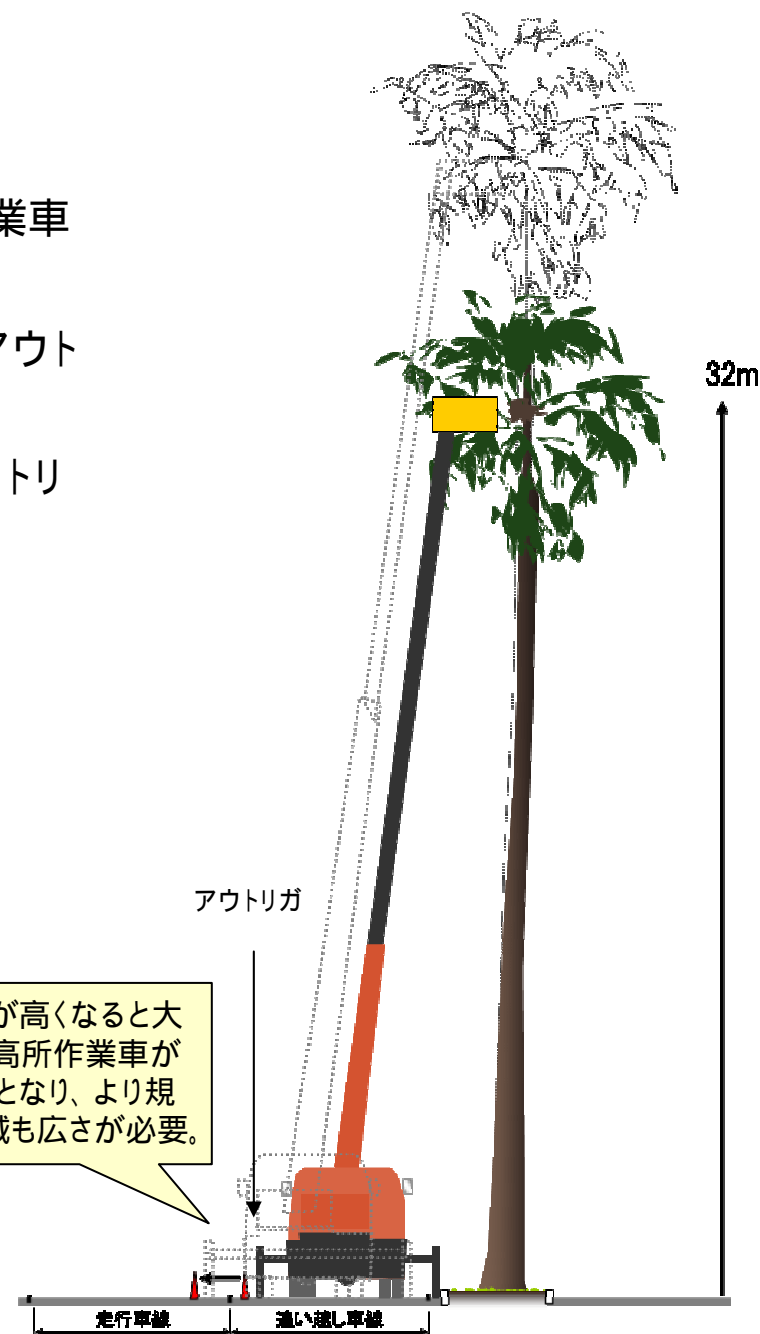
もうワンサイズ大きい最高到達高さ40mの高所作業車の場合、1車線規制幅内ではアウトリガがおさまらない

32m高所作業車: アウトリガ張出幅2.93m + ラバーコーン0.4m < 1車線規制幅3.75m

× 40m高所作業車: アウトリガ張出幅4.14m + ラバーコーン0.4m > 1車線規制幅3.75m

樹高32mになるまでには

(樹高32m - 植栽時4m) ÷ 年間最大成長量0.4m **約70年**
(植栽後)



樹高が高くなると大型の高所作業車が必要となり、より規制区域も広さが必要。

作業手法の観点(シューター)

- ・維持管理作業中、道路へ剪定枝を落とさないようにシューター(筒状)を用いている。
- ・シューターは、高所作業車のバケット(作業員が乗る部分)に縛り付けて固定する。
- ・樹高が高くなると、シューターの長さが足りず、現場で継ぎ足して使用している。
- ・シューターの継ぎ足しにも限界があり、橋通り付近では、これ以上高くなると今の方法では対応が困難。
- ・シューターの長さが長くなると、風にあおられて作業性に劣る。
- ・樹高が高いものの作業では、風が強いと今の高さでも不安を覚えることがある。

参考意見:(株)中村園芸場・(株)宮崎造園

成長が進むにつれ、作業の
困難さが増す



写真:(株)中村園芸場

老朽化樹木への対応の観点

- ・継続的に樹木診断を行いながら、倒木の危険性が認められたものから対応するという考え方もあるが、現況ワシントンアパームは一斉に植栽されており、このまま老朽化が進むと一度に大量の対応が求められる可能性がある。

更新や老朽化に一度に対処するのは困難であるため計画的な管理手法が必要

(3) 生態面(寿命)からの検討

現地に植栽されているワシントンアパームは「オキナヤシモドキ」と考えられる。

オキナヤシモドキは、明確な寿命がわかっていない。

類似樹種である「オキナヤシ」は、専門書によると寿命60年とされている。

橘通りのワシントンアパームは、昭和42年に植栽されており、植栽当時樹齢15年程度と考えると、現在の樹齢は60年に達している。

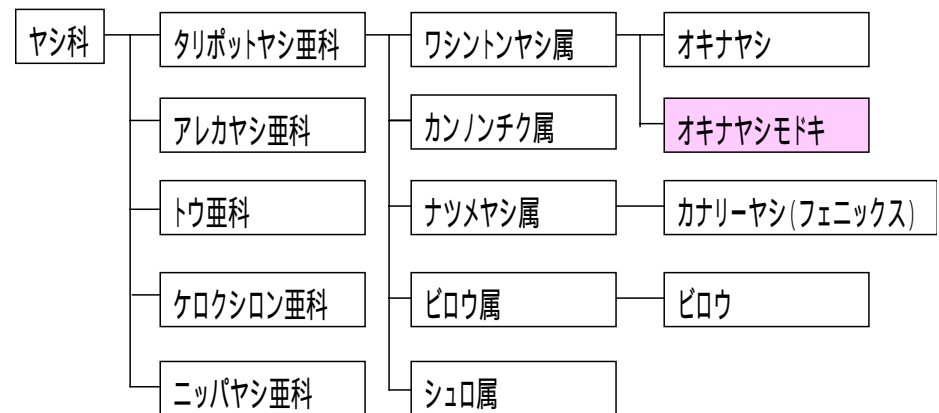
鹿児島における事例として、樹齢約100年(樹高約35m)になったものがあるとされている。(道路植栽ではない)



オキナヤシ



オキナヤシモドキ



・寿命については60～100年と幅広い。

・枯れて倒れる前に処置することを考えると限界まで待つのは好ましくなく、ある程度余裕をみる必要がある。

おおよそ80年と想定

(4) 景観面・安全管理面からの検討のまとめ

景観面

- ・「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」がワシントニアパームにおける道路景観を印象的にしている。
- ・「ワシントニアパームのある道路景観」を感じさせるには樹高10m～15m程度以上まで成長させることが望ましい。

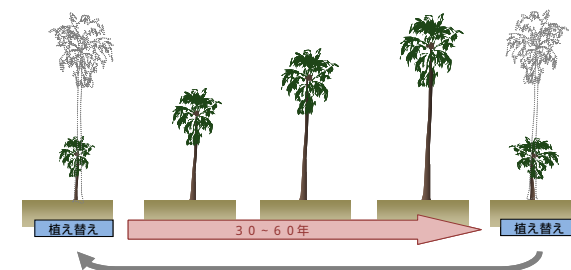
樹高10mになるまでには植栽後約30年

安全管理面

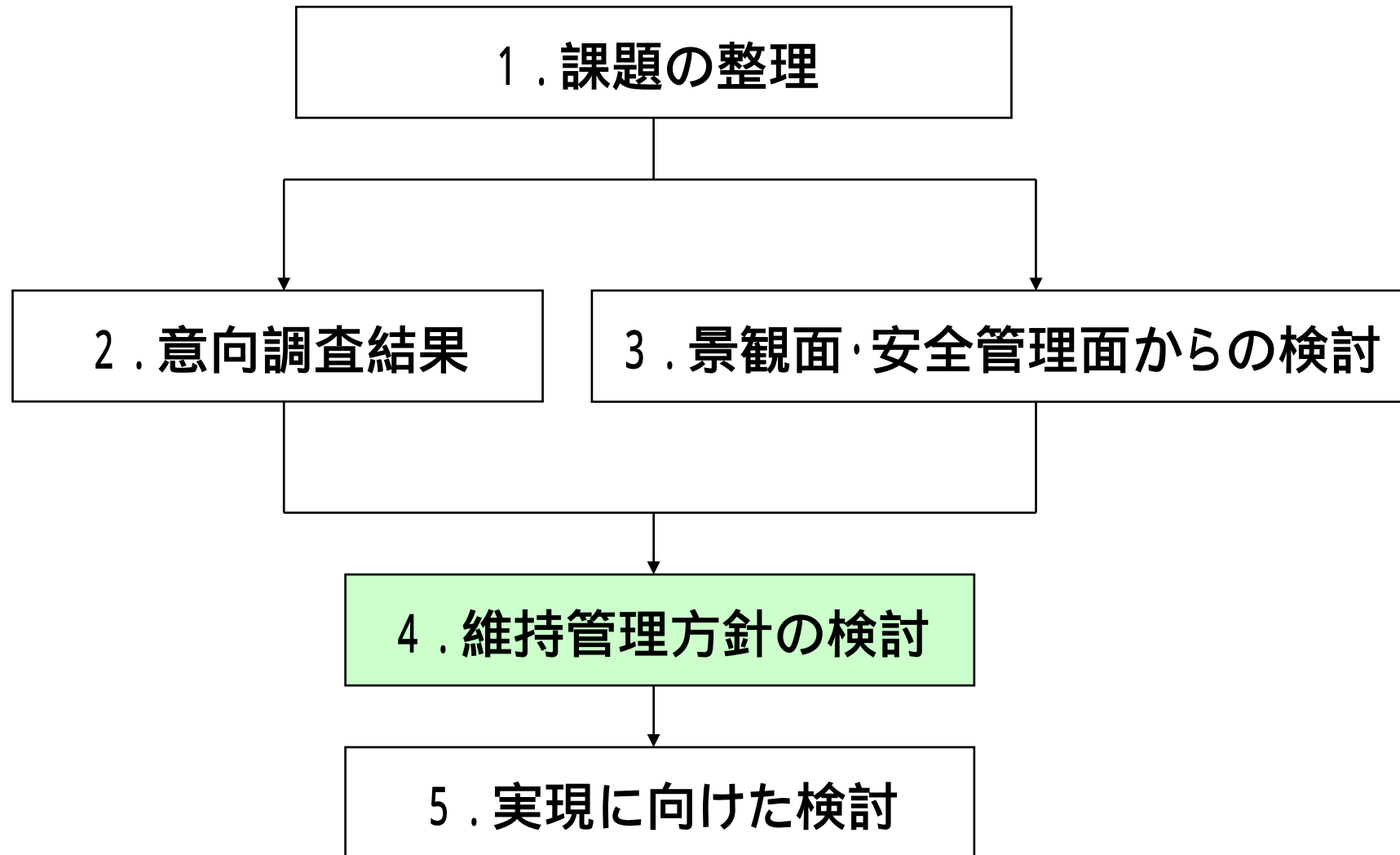
- ・1車線規制幅で作業可能な限界高さ32mに達するまで植栽後約70年。
- ・成長が進むにつれ、作業の困難さが増す。
- ・更新や老朽化に一度に対処するのは困難であるため計画的な管理手法が必要。

生態面

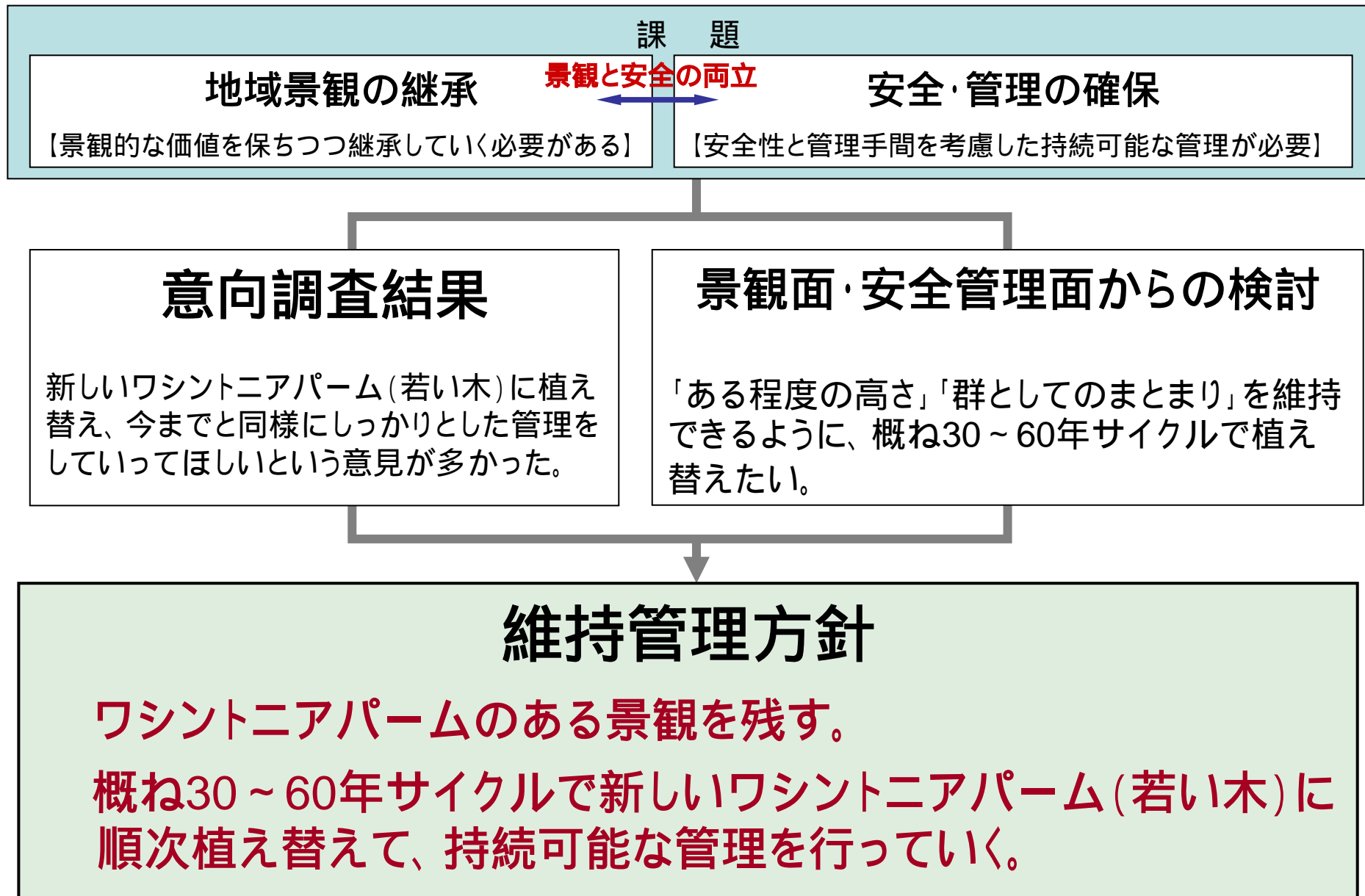
- ・文献や事例から寿命はおおよそ80年と想定。
- ・植栽時に樹齢15年と仮定すると、植栽後おおよそ65年。



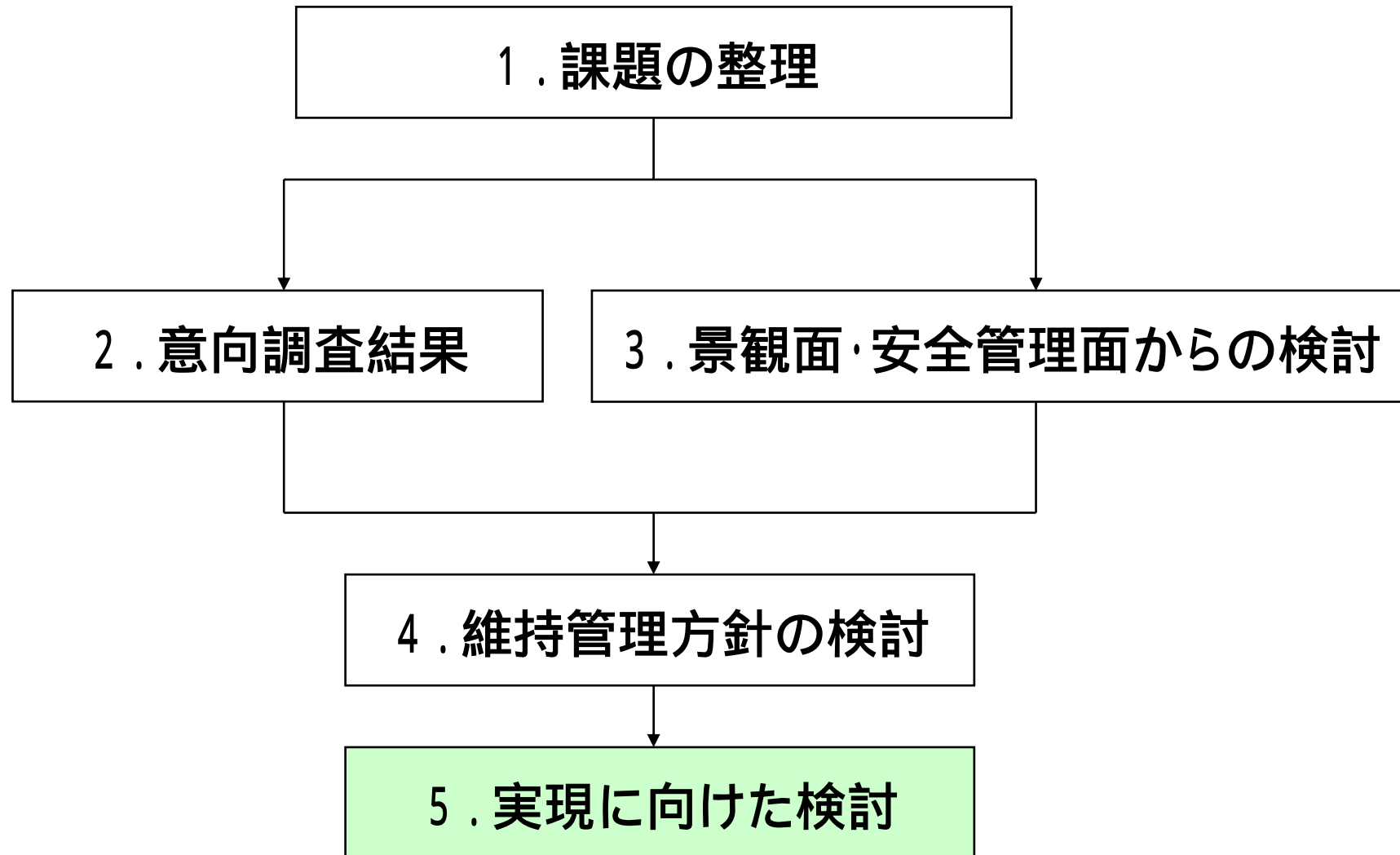
「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」を維持できるように
概ね30～60年サイクルで若い木に植え替えたい



4. 維持管理方針の検討



サイクル年数については、現在の測定値からの推定であるため、今後の調査や状況の変化等から見直されるものである。



5. 実現に向けた検討

「どこから」「どのように」植え替えていくか？

植え替え単位

1. 場所に関係なく、樹高が高いものから順番に植え替え
2. 樹高と植栽間隔を考え、ある程度まとまった区間で植え替え 区間の考え方は次頁参照

植え替えパターン

1本置き: 1本置きに植え替えていく(若木がある程度成長した段階で残りのものの植え替え)

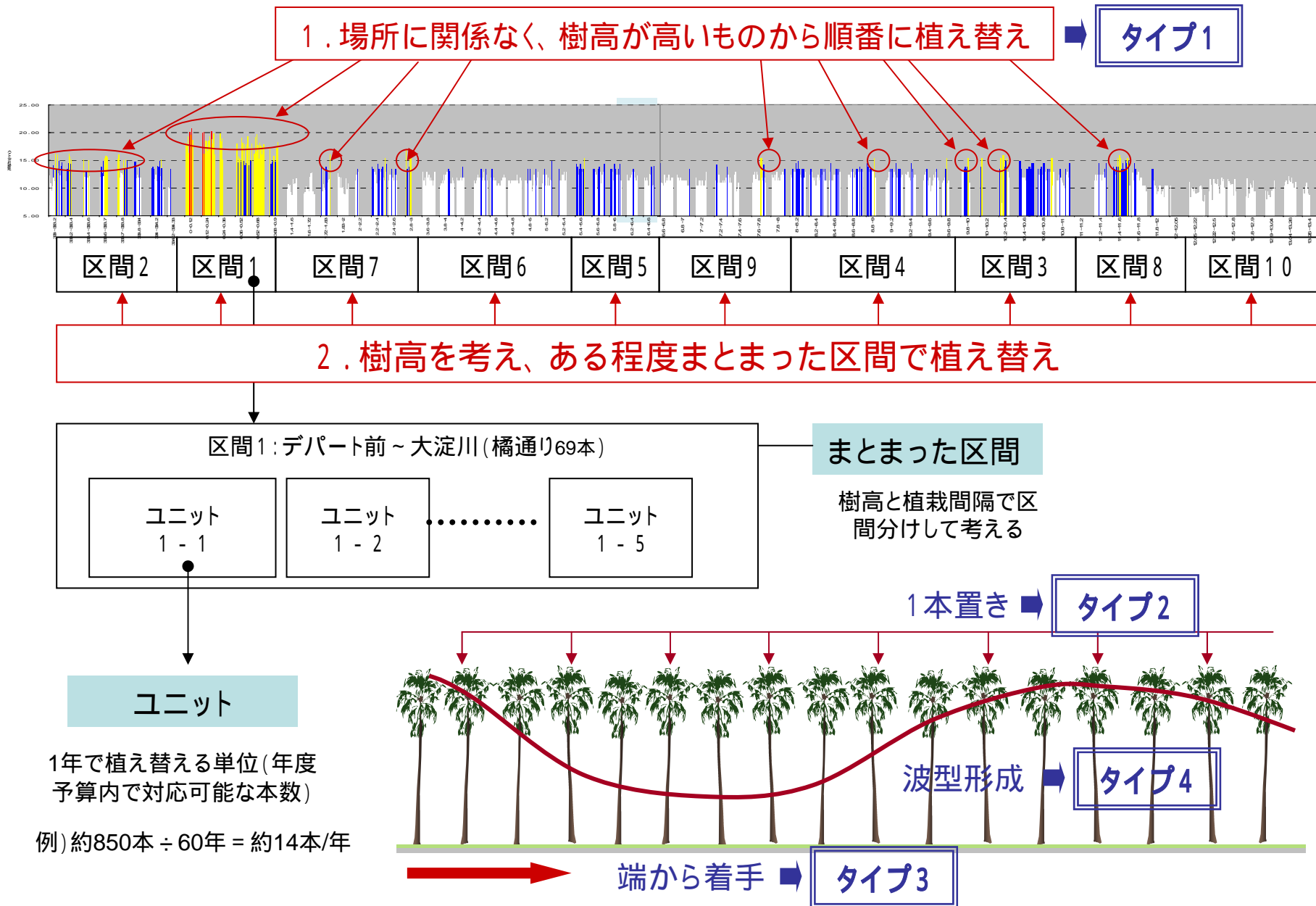
端から着手: 施工性を考慮して端から順番に植え替えていく

波型形成: 成長速度を考慮して波型を形成するように植え替えていく




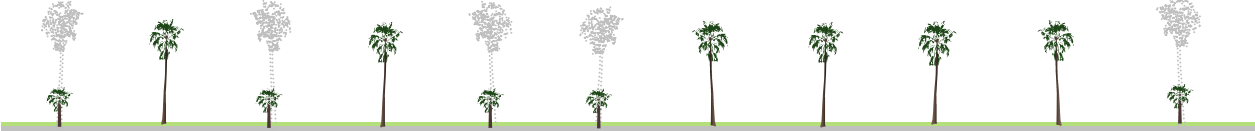
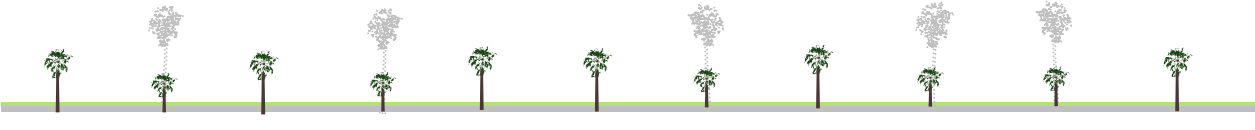
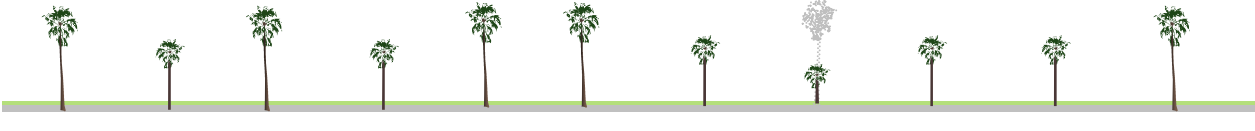
植え替え単位	パターン	植え替えタイプ
1. 場所に関係なく、樹高が高いものから順番に植え替え		タイプ1
2. 樹高と植栽間隔を考え、ある程度まとまった区間で植え替え	1本置き	タイプ2
	端から着手	タイプ3
	波型形成	タイプ4

(参考) ある程度まとまった区間とは？ (区間とユニットの考え方)







- ・「現況」「撤去」「若木植栽」「将来基本形」を時系列で検討する。
- ・ワシントンアパームの成長には時間がかかるため、各段階での見え方(その時点での景観)を確認する。



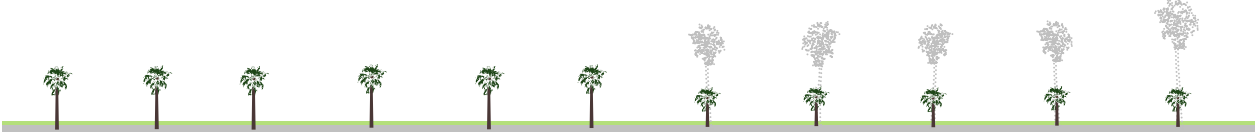

タイプ1【高い順】

植栽間隔:樹高	イメージ(側面)
現況	
STEP1 【撤去(第1弾)】 +【若木植栽】	
STEP2 【撤去(第2弾)】	
STEP3 【将来基本形】	





タイプ2 【1本置き】

植栽間隔:樹高	イメージ(側面)
現況	
STEP1 【撤去(第1弾)】 + 【若木植栽(第1弾)】	
STEP2 【撤去(第2弾)】 + 【若木植栽(第2弾)】	
STEP3 【将来基本形】	

タイプ3 【端から着手】

植栽間隔:樹高	イメージ(側面)
現 況	
STEP1 【撤去(第1弾)】 + 【若木植栽(第1弾)】	
STEP2 【撤去(第2弾)】 + 【若木植栽(第2弾)】	
STEP3 【将来基本形】	

タイプ4 【波型形成】

植栽間隔:樹高	イメージ(側面)
現 況	
STEP1 【撤去(第1弾)】 + 【若木植栽】	
STEP2 【撤去(第2弾)】	
STEP3 【将来基本形】	



タイプ1: 高い順 (STEP2)



タイプ2: 1本置き (STEP1)



タイプ3: 端から着手 (STEP1)



タイプ4: 波型形成 (STEP2)



タイプ1: 高い順 (STEP2)



タイプ2: 1本置き (STEP1)



タイプ3: 端から着手 (STEP1)



タイプ4: 波型形成 (STEP2)

第3回 国道 10 号・220 号の植栽と景観に関する検討会 議事要旨

平成 25 年 3 月 15 日

1. 意向調査

- ・「宮崎らしさ」を感じる意見が多く見られ、生活になじんだものになっていると感じた。アンケートの結果、生活の中でワシントニアパームが重要な要素として位置づけられていることが明らかになった。
- ・子ども向けアンケートにおいても、ワシントニアパームを知っている(名前まで)子どもたちが約5割もいるということは、他県ではありえない数字だと思う。

2. 維持管理方針

- ・県内には、全県公園化構想や沿道集計美化条例の沿道修景植栽地区で道路の植栽がなされており、県内全体の沿道の植栽の現状を評価してから、今回対象区間の評価をすべきであった。今回、ワシントニアパームについては、問題を受けての今後の管理方針をとりまとめたことは良かったと思う。
- ・ワシントニアパームの群としての価値を再認識できた。基本的にワシントニアパームのある景観を維持する方向性で良いと思う。
- ・今回、長期的な視点で、時間の概念を取り入れ景観を維持しながらワシントニアパームの更新計画を行っていくという方針であり、同意できるものとなっている。
- ・一気に植え替えると景観が崩れてしまうと思う。30年～60年という長期での取り組みには、今後、しっかりと計画を立てる必要があると思う。
- ・維持管理方針としては、「ワシントニアパームのある景観を残す」といことを、明示した方が良い。

◎結論

- ・ワシントニアパームのある景観を残す。
- ・概ね 30～60 年サイクルで新しいワシントニアパーム(若い木)に植え替えて、持続可能な管理を行っていく。

3. 実現に向けた検討

- ・検討対象区間(特に空港～総合運動公園)は、ワシントニアパームの高さや道路の幅のバランスが良いと思うが、ワシントニアパームの足元の花木については景観上の検討が必要。
- ・景観の分析については市街地と郊外の2つに区分しているが、具体的に計画する段階では、その中間的な区間も含め3区間くらいに分けて検討を進めてはどうか。
- ・植え替えタイプについては、ある程度まとまりを持った景観とするために、基本的にはタイプ2(1本置き)あるいはタイプ3(端から着手)が望ましいが、今後、周辺景観や交通量等をふまえ、その場に合った手法を検討していく方向が良いと思う。
- ・植え替えの方法についても単に切るだけでなく、取り木や挿し木等による方法や、どのように長生きしてもらうかということの分析するためのモニタリング方法など今後検討して欲しい。
- ・ワシントニアパームの倒木などの危険性に対するモニタリングを国交省や宮崎県が連携して行う検討も必要ではないか。
- ・行政だけで地域の景観を守っていくのではなく、官民協働のしくみ(例えばワシントニアパーム基金)をつくって、経済的な確保をすることも良いと思う。
- ・ニースやカンヌは1900年代にワシントニアパームが植えられている。100年以上経過しておりどのような管理をおこなっているか、海外での先事例を参考にしたい。
- ・国道 220 号中村町の中央分離帯にある横断防止柵について、植物に代えることも考えて欲しい。